令和６年度

第 64 回　九州地区公立学校教頭会研究大会

第 62 回　宮崎県公立小中学校教頭会研究大会

宮 崎 大 会

報 告 誌（デジタル版）

「未来を切り拓く力を育む　魅力ある学校づくり」

令和６年８月 22 日（木）・23 日（金）

１日目…分科会　２日目…全体会

会場：シーガイアコンベンションセンター

第 1A 分科会「教育課程に関する課題」

提言 1

研究主題	目指す児童像の実現に向けた教育課程の改善
副主題	カリキュラム・マネジメントの推進を通して
協議の柱	各校でのカリキュラム・マネジメントと教育課程の改善に向けた教頭のかかわり
提言者	平戸市立根獅子小学校　　時津　太滋（長崎県）

提言 2

研究主題	ふるさと蘇陽を誇り、夢の実現を目指す生徒の育成
副主題	地域の人材や教材を活用するための教頭の役割について
協議の柱	地域社会との連携を図り、ふるさとを愛する生徒の育成を実現するための教頭の役割はどうあるべきか
提言者	山都町立蘇陽中学校　　米田　豊和（熊本県）

提言 3

研究主題	コミュニティスクール制度の導入と充実について
副主題	地域と一体化する学校運営における教頭の役割
協議の柱	学校と家庭・地域が互いに連携し、学校運営を行うに当たって、教頭の役割はどうあればよいか
提言者	宮崎市立宮崎西小学校　　森　誠四郎（宮崎県）

指導助言者	義務教育課　主幹　　寺田　菜穂子
指導助言者	宮崎市立木花小学校　校長　　平山　十四郎

【提言１】長崎県平戸市立根獅子小学校

教頭 時津 太滋

Ⅰ 質疑応答

Q１ 教育活動改善に取り組むことで教職員の負担が増すが、どのように対応しているか。

A１ 先生方の負担感をまず受け止める。また、日課を変更したり、放課後の時間を生み出したりして対応した。

Q2 教頭が代わっても教育活動の改善を継続する仕組みはどのように考えているか。

A2 完全複式という実態から教頭も率先して校内研究に関わるようにしている。人材は校内だけでなく市、県単位でも発掘していく必要があると考えている。

Q3 小規模校における教職員への声掛け、指導助言で有効だった手立てはどのようなものがあったか。

A3 教職員に、今日の活動で子ども達に身に付けさせたかった力は何かと質問することで、教職員の活動への視点が変わり、成長が感じられるようになってきた。

Ⅱ 研究協議

１ 何のために教育課程の改善をするのか、教職員が意識できる仕組み作りが大切である。例えば、A4の１枚の用紙に活動の流れをまとめて、それに活動の振り返りを簡単に記入できるようにする。教職員も児童も感想を書くのも有効である。

２ 教頭が、教育活動の改善のためにまず動くこと、教職員の実態に応じた声掛けをすることも大切である。週案に活動の改善内容を朱書きし、次年度の準備まで今年度の担当がしておくと、新年度にスムーズには活動することができる。

３ 子ども達にどんな力を身に付けさせたいか、教頭も俯瞰的に学校の教育活動を日頃からみておくことが大切である。

Ⅲ 指導助言

<木花小学校 校長 平山十四郎>

１ カリキュラム・マネジメントについて

○ 保護者、地域を巻き込み、諸計画のつながりを有機的に改善し、社会に開かれた教育課程を作るのがカリキュラム・マネジメントである。そのためには、小さな改善の積み重ねが大切である。

２ 教育課程を作る際の留意点について

○ 子ども達の未来を考えて、全教職員で編成することが大切である。

３ 教育課程の改善について

○ 教育課程を実践する教職員を育成するしかけが必要である。他教科との関わりを把握し、必要な人材を洗い出すなどして教育課程の見える化をすることによって活動が充実していく。多忙な中に実践し、子ども達が成長したことを感じて、職員もやりがいを感じることができる。

４ 教頭の関わりについて

○ 普段から教職員と言葉を交わし、教頭が学校の教育活動を俯瞰して見て、助言・指導してほしい。また、子ども達の成長する姿を手掛かりにして、教職員を指導してほしい。そうすることで教職員の働きがい改革、働き方改革につながっていく。

５ まとめ

○ 他教科・他学年とのつながり、地域人材の洗い出し、PDCAサイクルを大事にすることが、カリキュラム・マネジメントにとって一番大切なことである。

【提言２】 熊本県山都町立蘇陽中学校

教頭 米田 豊和

Ⅰ 質疑応答

Q１ 地域との関わりやウイン・ウインの関係など還元はあるか。赤牛給食を認知の後、学校からどう還元しているか。学習の深まりはあるのか。

A１ 町の SDGS との関連や還元などはないが、赤牛をおいしくいただくことが赤牛の魅力を知ることになる。これから模索したい。

Q2 学校支援協議会とは、どんな組織なのか。

A2 蘇陽中校区の3校が学期に１回中学校区の会議を持ち回りで開く。PTA や地域の方々、人材バンクの方々が参加し、学力や学校の方向性、総合的な学習の時間をどう回していくかなどの直接的な話し合いの場となっている。目的は運営協議会と同じである。

Q3―１ 学校の SDGS の取組と市との関わりはどう

なっているのか。 学校教育の教育課程の位置付けはどうなっているのか。

Q3―2 地域との関係で、総合的な学習の時間で子ども達の課題意識をもたせるが、子どもは受け身にならないか。

A3－1 SDGSの未来都市、2021年指定された。 国からの支援もあり、町の活性化があった。教育課程では、総合的な学習の時間に組み込むテーマが、学年ごとにある。

A3－2 課題意識をもたせるのは、小さい頃からの体験による。専門家が教えると、1人1人は感動的学ぶことになる。

Ⅱ 研究協議

○ 地域と学校のつながりということで、やはりコーディネーターを行政が位置付けているところもある。行政でなく保護者や校長先生がコーディネートしてくださるところがあるとうまくいく。

○ ふるさとのよさを子ども達に気付かせるが、子ども達が将来的に町にとどまるのが難しい。地域にある産業を引き継ぐ魅力がない、引き付けられないという悩みがある。

○ 教頭は異動が早い。次の教頭への引継ぎが難しい。校務分掌ごとに役割を分担しておくとよいのではないか。

○ 地元とつなぐとき、地元のキーマンとなるリーダーがいることでやりとりがスムーズになる。

○ 地域は元気なのに子ども達が元気になっていない。地域との擦り合わせが大切である。

○ 子どもが地域の方を巻き込んでいろいろな場面、子ども発信で動き、子ども達のやりたいこと、教員のやりたいことを教頭が影で支える。教頭も情熱をもつことが大切である。

Ⅲ 指導助言

＜宮崎県教育庁義務教育課主幹 寺田 菜穂子＞

この発表は、開かれた教育課程のもと、地域人材を生かしながらふるさとを誇り、夢の実現を目指す児童生徒の育成を目指すものであった。予測困難な未来を生きる子ども達の育成は、学校だけでは難しく、社会の力が求められており、ここ数年で地域学校協働活動をはじめ、社会の協力や理解も進んでいるところである。その中で、本質的には、今日発表していただいたような地域人材や地域教材を生かした発表は大変参考になるものが多かった。

社会に開かれた教育課程を見ると、子ども達に求められる資質能力は何かを社会と共有し、連携する必要がある。子ども達に求められる資質能力とは何かを共有することが大切になってくる。本質を捉え、正しく理解すること、共有・連携には非常に大切なことである。

地域素材を活用し、この時間にこの活動を通して身に付けたい資質能力は何かを考えてその時間の活動を行っていく必要がある。 学習をこなすことに満足したり、それが負担になっていることがあったりするのではないかと思っている。先生方が日頃からこのように考える癖を付けていくことが必要だと考えている。日頃の学習との関連、非認知能力との関連の視点を職員でもっておく。

新しい活動に取り組む時、一部の職員、または教頭がすべてを受け持たれてそのまま数年引き継がれていることがないかということを1つのポイントとしてもつ。

本発表にもあった1年目の役割を見極めたり、組織的に取り組んだりというところを終えた後、誰につないでいくのか、学校全体の体制や組織として全職員が主体性をもっていくにはどうしたらよいかを考える癖をつけていくことが大切である。本質が捉えられていないと削減を間違える。社会に正しく理解をしてもらえない。 一緒に何がしたいかではなく、こんな力を付けた児童生徒を育てるために、この活動が必要なことが全職員で語れるような職員集団になると正しい理解が進む。

次に、 子ども達の主体的な姿勢の育成といった点で、 町の魅力、自然豊かな山都町の取組をよりアウトプットできる場をたくさん取っていただいている状況を発表いただいた。また、そのような機会を十分に生かしながら子ども達を育てていくカリキュラム作りを進めていただけたらと考えている。

また、もう一つの視点として小中のつながりということも視点に入れていただけたらよい。子ども達の活動を見ながら職員に指導していったり、教務主任にそういう視点をもたせていったりすることで、変えていくのも教頭先生達の役割の1つになってくる。もちろん校長の役割もあるので校長と協力して行っていく。職員の意識改革がなかなかうまくいかないこともあるが、一緒に考えてやっていくという姿勢が必要である。

町の素晴らしい地域資源、人の温かさ、地域の魅力がたくさん詰まった報告であった。ふるさとを見つめること、今の自分の立ち位置から過去・現在・未来

の視点をもたせて考えさせていくことで未来の自分に思いを馳せながら夢の実現を目指す子ども達に育てていくことがよいと考えている。

【提言3】 宮崎県宮崎西小学校

教頭 森 誠四郎

Ⅰ 質疑応答

Q1 学校運営協議会をスムーズにするためには その初動をどのようにしているか。児童生徒が主体的に動くのは難しい。学校運営協議会だよりは、誰が作られたか。よい初動になるためには どのようにすべきか。

A1 学校運営協議会だよりの2号を発行した。3校で話し合い、1年目はそれぞれの学校で取り組み、2年目には あいさつが飛び交うような話し合いを行った。 ホームページにアップしたが、アクセスは受動的なので、たよりを自治会へ配布した。今、自治会加入が少ないのでどうなのか考えるべきだが、初動が必要である。データとか体裁を整えるのは教頭が行った。学校運営協議会だより2号の作成のために、PTA、自治会。地域への依頼の初動は教頭が行った。コミュニティ・スクールの運営は苦労していた。教頭は、委員ではないので関わりが難しいが、委員や校長に進言はできる。教頭としても教育課程に反映できるものがあるので、中学校区の3校でどんな考えがあるかつかむのは大切である。

Q2 コミュニティスクールをまだ、立ち上げていない。学校評議委員会があるけど、学校運営協議会のすみわけはどうなっているのか。

A2 以前の宮崎市の学校関係者評価で PTA、地域の方に来ていただいた。その形がコミュニィスクールに変わった。

Ⅱ 研究協議

○ コミュニティスクールが長く続くにはどうしたらよいか考えた。教頭が変わったり、役員が変わったりして続かないでは困る。地域のコーディネーターを育て、教頭が支える。メンバーの工夫をし、弁護士、警察、スクールロイヤーの方々に入っていただくと教頭も安心していろいろなご助言をいただける。また、学校運営協議会の委員の存在を保護者に伝える必要がある。

○ 現在の課題として、 理想と違い、学校の負担が増えたことが大きい。学校発信になると学校から言われたことをすればいい、ということから抜け出せない。学校の言うことはするけれど学校運営協議会の委員の方々で何ができるかということに関して動きが見られない。教育委員会や自治体が関わって、研修会を開いてくれるとか、外側から言っていただくといい。

○ 地域や自治体に強いリーダーシップをとる方がいて、その人を中心に進めるのが本当の姿かなと思う。そういう人材を見つけていくのも教頭の仕事の1つかと思う。

○ 設置者が学校運営協議会を設置する。学校評議委員会がそれに移行しているということが分かった。中学校は中学校、小学校は小学校である学校と、中学校区で1つの学校運営協議会をしているものが分かった。

Ⅲ 指導助言

＜宮崎市木花小学校 校長 平山 十四郎＞

今回の発表で、運営協議会がこれまでの学校関係者評価に比べて、学校への要望意見だけでなく、より主体的に教育に関わろうとするという文言があった。

コミュニティスクールの導入によって地域住民の方が新たに学校のやったことを評価するところにとどまらず、学校づくりの当事者として教育への理解が高まったということを実感し、現れと感じている。

年度のはじめや終わりに学校運営協議会では学校がなぜそういう教育課程を編成したか、承認していただくことが行われる。その関係で学校任せではなく、地域としてできることはないのか対策を考える場になっている。

社会に開かれた教育課程の実現、学校と地域の相互の連携で一体となって子どもの成長を考えるという一面もある。地域が核となるのがベストだが、学校が核となって行っている。その調整役は、教頭先生が多いようである。

教職員への助言とか打合せとか調整とか講師の協力依頼、教頭先生の苦労が土台となって動き出してきていることを感じた。

教頭先生の役割として5点、考えることがある。

１点目は、学校運営校議会について、教頭が全て背負い込むのではなく教務またはコミィニティスクールの役員という役職を与えて役割分担の仕組みを確立する、明確化していく。

２点目は、地域活動推進委員、地域の方をコーディネートする方が大切になってくる。その発掘に力を入れることも大事である。もしそのような人材がいれば働きかけて地域活動推進委員の中に入れる。

３点目は、学校運営協議会の発信、周知の仕方を探る。

４点目は、学校運営協議会を教育課程に位置付ける。会の日時、内容、全職員の方々見える化をする。

５点目は、 学校運営協議会の毎年の成果と課題、引き継ぎ書を記録として残して確実に引き継ぐ。今まで、個人と個人のやりとりが組織対組織という姿になってくる。教職員の移動があっても持続的に取り組んでいくものになる。いわゆるマネージメント、効率的に動けるように、そういった記録を残すことが大切と思う。

最後になるが、学校と地域の顔が見える関係となると、現状への理解が深まり、学校の応援団としての協力が得られる学校運営が実現されるとよい。

Ⅳ 全体総括

＜宮崎県教育庁義務教育課主幹 寺田 菜穂子＞

このＩＡ部会は、教育課程に関する課題を研究テーマになっていた。

１つは、カリキュラム・マネジメントである。印象に残った言葉はカリマネの主体は教頭や教師ではなく全職員であることというお話である。全部を教頭先生が担うのではなく、職員全体がこれを理解しながら一体となって進めていくことが肝要ではないかと、考えている。

もう１つは、教頭会の取組の紹介があった。１つの学校でなかなか育成できないことを市の単位とか町の単位だとか協力して育てていくという視点が今回の提言の中には見られた。大事なことは、私たちの仕事の本質は何かを上手に語り継いでいかなければならないことを非常に感じた。

また、社会に開かれた教育課程ということも3つの提言の中で出てきた。この中でも教頭先生が、社会につながる、充実させる、何ができるのだろうという点は非常に力を割いていくところだと思う。蘇陽中の米田先生の発表の中では、町の施策と連携しながら様々な充実した活動がある。教頭の中でやりたいことが、きっと児童生徒たちのやりたいことにつながっていると思う。

協議の中で“俯瞰する”、“つながる”や森先生の発表で“伝える”、“初動を起こす”そういう言葉も出てきた。大事な言葉で教頭先生方としては認めていただきたい言葉と思っている。

協議の中で、職員の実践のための集約、声かけを優しい言葉で言い換えてくださった教頭先生もいる。人材育成という面で今、教頭の言葉かけは、なかなか気を遣うことがある。しかし、何か積み上げていく時には、そこを共有し合う、理解し合う過程を大事にして欲しいと思っている。

教頭の役割の中で、初動を起こすこと、全部教頭先生が受け持つではなく、少しずつ職員に渡すことが必要なのではないかなと思っている。

地域と学校をつなぐ役割が教頭の業務は膨大になりがちだ。校長先生にしかできないこと、一緒に数年先の教育ビジョンを考え、職員をどう導いていくのか、一緒に考え、少しずつどこから削れるのか、どこなら任せられるか、任せる勇気というのが必要になる。

今回の発表は、3名とも窓口という言葉を使っていらっしゃった。教頭は学校の顔であり、保護者も地域の方も一番話しやすい存在であると思う。ただ、何でもかんでもいつまでも教頭が窓口ということではなく、それだと職員も社会とのつながりが育てていかないと私は考えている。窓口の捉え直しというのも必要ではないか。

第 1B 分科会「教育課程に関する課題」

提言１

研究主題	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた極小規模校における授業改善
副主題	ガイド学習を通してめざす子どもを中心に据えた授業づくり
協議の柱	１　ガイド学習は，極小規模校に育つ子どもたちが「主体的・対話的で深い学び」を実現するのに効果的であったか ２　極小規模校における授業改善を進めていくにあたり，教頭としての役割は適切であったか
提言者	佐伯市立米水津小学校　　益田　亮（大分県）

提言２

研究主題	ふるさと「さが」を協働でつくる個性と創造性に富む人づくりを目指した教育課程
副主題	佐賀市の教育施策に基づく小中学校の取組
協議の柱	市町の教育施策に基づいた各学校の特色ある教育課程の実践と、学校間での情報共有について
提言者	佐賀市立東与賀中学校　　小野　しのぶ（佐賀県）

提言３

研究主題	地域の特色を活かした学ぶ環境づくり
副主題	学校運営協議会における教頭の関わりを通して
協議の柱	教頭として学校運営協議会の運営にどのように関わればよいか
提言者	都城市立高城中学校　　倉田　和也（宮崎県）

指導助言者	義務教育課　主幹　　矢野　義人
指導助言者	宮崎市立宮崎西小学校　校長　　田原　理恵

【提言Ⅰ】大分県佐伯市立米水津小学校　益田 亮

Ⅰ 質疑応答

Q1 生徒数から、完全複式で担任 3 名になると考えられるが 4 名になっている。大分県は職員配置に工夫があるのか。複式学級はどのような経緯で編成したのか。

A1 大分県は 1 年生を複式学級にしない。編成の基準としては、 高学年から順に複式にすることが理想だが、人間関係等の学校の事情で必ずしも同じ方法で編成するわけではない。編成によっては、ガイド学習を進めていく上で都合がよくなる場合もある。ただ、佐伯市では授業はほぼ単式化して実施しているため、職員の持ち時数が増えているという課題がある。

Q2 ガイド学習と一斉授業の割合はどのようにしているか。

A2 国語と算数のみでガイド学習を実施している。一方の学年がガイド学習をして他方がリーフレット作成等の活用学習をするなど工夫している。校長や教頭も授業に入ることがある。道徳でもガイド学習を取り入れる学校がある。

Q3 複式学級の授業準備とガイド学習の準備、ガイド役の生徒との打ち合わせの時間確保など、どのように効率化や負担軽減を図っているか。

A3 学級担任は朝の始業前や補充学習の時間にガイド役の生徒との打ち合わせをしている。ガイド学習が進んでいくと、子どもに活動を任せれば任せるほど教師の準備が増えていくという課題が出てきた。教頭としては、学年を追ってガイドを単純化したり掲示物等を減らしたりするようにと助言した。

Q4 ガイド学習の効果や課題はどのようなものか。また、その効果が他の場面で見られた例はあるか。

A4 2･3 年生の授業では２年生のガイド役の生徒が 3 年生の授業を後方から見学して学んでいた。何よりも積み重ねが大切で効果があった。他の場面では、少ない指示で子どもたちが動いたり、自然に話し合いが始まったりするようになった。生徒が学習活動を始めるまでに時間がかからなくなった。

Ⅱ 研究協議

1 課題となっている教材の準備の時間確保や効率化については、市で各校の実践や参考になる事例のデータを共有・保管できるツールを活用し、教頭が窓口となって所属職員に知らせるとよい。Google のクラスルームを活用すると生徒への情報提供も効率的に行うことができる。

2 中学校ではガイド学習の実践が少ない。国語科としては、ノートに書かないことが気になったが、書く時間とロイロノートを活用する時間を単元内に計画的に配置することで、 ロイロノート活用の有用性が確認できた。

3 子どもの人数や規模に関わらず、学び方を学ぶという意味でガイド学習は有効であると考えられる。ガイド学習の中で先生がすべき仕事と生徒がやれる活動の洗い直しを行うことで、さらに洗練された学習になると考えられる。

Ⅲ 指導助言

＜宮崎県教育庁義務教育課 副主幹　矢野義人＞

1 今後の日本の少子化について

〇少子化に伴い、生徒数が減り公立小中学校の統廃合や学級数減が進んでいく。小規模校の場合は、クラス替えができないことや男女の偏りなどの課題が生じることも考えられる。現在小学校の 4 割、中学校の 5 割は学校の標準学級数以下になっているが、学校は地域のコミュニティの核になるものであるため、小規模校でも存続させることがある。小規模校では、メリットを最大化しデメリットを最小化する必要がある。

2 本研究の良さについて

〇小規模校のデメリットをメリットにする取組である。授業を単式化せず、あえて複式化してガイド学習を取り入れることで、子どもたちの主体性を伸ばそうとする取組であった。

〇主体的対話的で深い学びに向かうという教育的課題に全職員で取り組んでいる。

〇自主性とは、人が決めたことを自らやること、主体性はやることもやらないことも自分で決めて行うことである。子どもたちが教師と課題意識を共有し、ガイドシートや対話を通して自分たちがこうなりたい、こうならなければならないということを自覚して活動している。本校の取組は極小規模校だけでなく全ての学校で目指すべきことであり、参考になる実践である。

3 さらに取組を充実させるために

〇授業改善における教頭としての関わり方として、教職員のベクトルをそろえるマネジメントは行わ

れている。同一地区での研修会を設けて、教頭間・教務主任間、研究主任間のネットワークを作るなど、外部との関わりをもつことも今後大切である。そのために校長と相談し、行政とのつながりをもつことも重要である。

○生徒アンケートだけでなく全国学力学習状況調査の意識調査結果などの経年変化を数値で職員に示し、教師に実践の効果や達成感を味わわせることが必要である。

○離島等の遠隔教育や小規模校の課題解決的な学習、端末を利用した授業と家庭学習、学び方を選択した学習等について、文部科学省の学校の魅力化フォーラムや熊本県高森町の事例を参考にするとよい。様々な取組を職員に示すことも教頭の役割の一つである。

【提言2】佐賀県佐賀市立東与賀中学校　小野しのぶ

Ⅰ　質疑応答

Q1　幼保小連携の具体的取組について

A1　園児と小学生の交流活動（児童が考えた遊びに取り組む）、園児の1日体験入学、園職員による全小学校訪問及び担任との意見交換（6月頃、1　年生の様子）、1年生担任による園の参観及び意見交換（入園前）。

Q2　小中連携の具体的取組について

A2　中学校と小学生の合同活動（中学校の生徒会活動にて計画。例：そうじ、体育会大会ボランティア、あいさつ運動）、中学校教員による小学校での乗入授業。

Q3　東与賀中「市民性を育む取組」の中の「異教科合同授業」について

A3　昨年度より実験的に実施。例として、中3の数学と中3の理科を同じ時間に2クラス混ぜて行っている。クラスは子ども達に選択させる。隣のクラスの子どもにも質問を聞きに行ったり、説明の得意な子どもはアウトプットしたりすることができている。

Q4　佐賀市に地域と学校をつなぐ立場の人がいるか

A4　地域ごとにリーダーがいる。公民館長、民生委員、地域づくり協議会会長、PTA 会長、地域コーディネーター等。教員の負担軽減にもつながる。職場体験の連絡調整等を行っている地域もある。

Q5　東与賀中の教頭としての具体的成果や経験

A5　学校の職員へねらいや価値について、思いを伝え、語ることで教師の理解を得ることが大切。

Ⅱ　研究協議

1　市町の教育施策に基づいた各学校の特色ある教育課程の実践と学校間での情報共有について

○「学びの5か条」は良い。

○ 学校運営協議会会長を幼稚園長が担当し、15年間を見通すことができている。

○「生活のきまり」を中学校区で統一することで、保護者の理解も得られやすくなっている。

○ 行政とつながり、子どもサミット等を実施。

○ 普段から学校に地域の方を入れておくことで、管理職が代わっても、持続できる。

○ 教頭が全部できるわけではなく、各機関とうまく連携し立ち回っていくことが教頭の役割。

○ 小中6プラン9プランというもので、中1を7年生と呼んでいる、中学校教師が乗入授業を行っている。

○ グーグルクラスルームを使って他校と共有。

○ 市町村の共有フォルダを活用している

○ PTA 活動がなくなり横のつながりがなくなった。地域とどうつながるかという点では、教頭だけでは難しい。地域の核になる人材を見つけていく。

○ 学校・地域・行政をどうつなぐか、間に立つ人が大切である。

○ PTA 団体の有無について
無→1 校、なくなる方向→4校

Ⅲ 指導助言

＜宮崎県宮崎市立宮崎西小学校 校長 田原理恵＞

1 佐賀市教育振興基本計画について

子ども達にどのような力を身に付けてほしいのか、その背景になるものは何か、そのために関係機関は何をすべきか等が、明確にまとめられている。

2 研究について

取り上げられた3校の目指す子ども像には、共通する内容が多々ある。地域性は異なっていても目指すことは変わらず、教育の方向性が整えられている。

佐賀市の特色ある取組「人権感覚の向上」「市民性を育む取組」は、各学校それぞれの地域性を十分に生かした取組であり、環境の違いを不安視する必要は全くない。まさに、「ならでは」の取組である。

3 今後の課題について

課題として、今後「つながり」をより活性化させることが挙げられている。大部分の学校で教頭は一人職であるが、「つながり」は、一人職の不安を解消し、方向性を定める大きな手立てとなる。

4 まとめ

先行き不透明な時代だが、子ども達には、未来をしなやかに生き抜いてもらいたい。そのためには、豊かな人間性を育み、一人ひとりの個性を活かし、その能力を十分に伸ばす教育活動が必要。それは、教育関係者に使命として与えられたことの一つである。

校長として、学校の教育活動を子ども達の個性を活かすことができるような創造的で柔軟にものにしたい、と常々思っており、教育課程は、それらを実際に形とする土台になるものである。

教頭先生方の素晴らしい力を発揮し、「子ども」が主語となる教育活動を展開してほしい。

【提言3】 宮崎県都城市立高城中学校 倉田 和也

Ⅰ 質疑応答

Q1学校運営協議会委員８名についての年齢構成

A1地域5人70代多い。PTA会長1、学識経験者（大学教授）1名

Q2 昼間に実施するための工夫

A2 昼間の実施に変更したところ出席が減った学校があった。会について早めの案内をしたり、年間計画で知らせたりしておく。授業参観と一緒に実施すると参加者が増える。

Q3 地域コーディネーターとは何か。

A3 学校運営委員会の委員より選定した。

もともと地域のお世話係だった方である。

Ⅱ 研究協議

1 地域との連携を深め、地域の教育力を生かすための教頭の役割

（1） 教頭の役割

○ 運営協議会の連絡調整役であると、教頭が変わっても持続できる。

○ 職員と協議会をつなぐ役割

（2） 学校運営協議会について

①工夫、成果

○ 学習支援部会、生活安全部会、保幼小連携部会の組織作りを行い、委員を割り振り、各部会のリーダーを選定。

○ 小中一緒に活動をしている。

○ 運営協議会に子どもを参加させている

○ 運営協議会でキャッチフレーズを決めておくとそれぞれの立場で意見を言いやすい。

○ 職員が地域を知らないもで、夏休みに計画し、職員が参加。地域を知らない保護者もいるので、保護者に魅力を伝えていく。

○ 運営協議会の中で、目指す子ども像を出している。

○ 経験のある方達は、趣旨を理解し、発言できている。

② 課題

○ 地域からのお願いが多くなることもあり、慎重に考えていく必要あり。

○ 委員の高齢化・任期・人選

・ 委員の任期について、可能であれば２年。

・ 地域間で委員を調整できるようにする。

・ あて職となっている。

・ 運営委員の継続希望をとる。

③ 設置状況

設置－90％程度、設置予定－5％程度、設置予定なし-5%程度

（3）地域との交流活動について

○ 委員がコーディネーターの役割を担っている。

○ 学校より支援要望をしている。

Ⅲ 指導助言

<宮崎県教育庁義務教育課 主幹 矢野 義人>

Ⅰ 提言の成果

(1) 子ども達の成長のために学校と地域の連携が不可欠という視点から組織的な取組からスタートしている。

(2) 地域の環境を生かした学ぶ環境づくり

教頭が学校運営協議会との関わりの中で、地域と学校との関係をうまく調整することで、教育効果の向上、学校の職員の負担軽減(講師選定等)が図られた。

(3) 持続可能な学校運営協議会運営の仕組み

① 地域コーディネーター

・ 大切な役割を果たす。

・ 地域によって状況が様々なので柔軟にやっていく必要がある。

・ 行政は設置義務があり、行政が委嘱するので、教育委員会に相談し、子どもや地域の課題の解決のために必要な方を要望する等、行政を頼ることも必要。

(4) 教育課程の位置づけ

① 土日に実施していたものを平日実施にしたことは職員の信頼につながる。

② 学校も地域もウィンウィンの関係

・AED 講習(子ども・地域参加)等。

(5) 学校運営協議会の在り方の工夫

① 子ども達の実態を知ってもらうことが重要

・平日実施し、児童の様子を見てもらう。

・土日の日曜参観の設定。

・いつでも来校してもらう。

関係づくりをし、実態を知ってもらうことが信頼や協力にもつながる。

さらなる充実のために

(1) 教育課程作成

① 行事についての視点

・ 子どもの思いがあるのか。

・ 育てたい子どもの姿に向かっているのか。

・ 子どもが受け身お客さんになっていないか。

・ 教師は実施するだけの取組になってないか

② 地域と行う行事を 1 度洗い出してみる。

・ 本当に必要なものだけを残していく。

教師や教頭の負担軽減につながる

(2) 学校運営協議会の当事者意識

① 学校を運営していく一員としての意識の変容が必要。

・ 熟議の在り方もついて、地域との協議を工夫していく。

・ 学校、行政の努力や PTA の協力も必要。

(3) 教頭の役割

① 連絡調整に終わっていないか。

② 1 年間の後半は、次年度に向けての学校運営協議会の課題と良かったところを見極め、次年度年間計画のたたき台を作成する時期。

③ 学校の課題に対して必要な人材を運営委員に入れる。有効な人材に委任することも重要。

④ 職員への理解促進

・ 運営協議会についての研修の実施。教職員が知らなすぎるという指摘もある。管理職は、教職員へ運営協議会の意義や仕組みを知らせる必要もある。文科省事業のコミュニティスクールマイスターの活用。NITS(教職員支援機構)の動画も活用するとよい。

・ 学校の魅力化フォーラム事業案内と活用。

Ⅳ 全体総括

<宮崎県宮崎市立宮崎西小学校 校長 田原 理恵>

まとめ

児童生徒が学校を卒業し社会に出た後を見通し、育成を目指す資質・能力を明らかにした上で、未来の姿から逆算して、現在の学年・教科・単元等でどのような指導を行うべきかという長期的な視点をもつことが大切。

どのような大人になってほしいのか、職員だけではなく、地域や家庭を巻き込んで三者でベクトルをそろえて子どもを育てる、つまり「社会に開かれた教育課程」の視点で認識の共有を図ることも大切。

「子ども」「子ども達」を主語にすることが、何より大切。

第２分科会「子供の発達に関する課題」

提言１

研究主題	児童の自己肯定感を高める教育活動の工夫
副主題	教職員の参画意識を高める教頭のかかわりを通して
協議の柱	児童の自己肯定感を高める教育活動を推進するために、教職員が参画意識をもって取り組むことができるようにする教頭のかかわり方はどのようにあるべきか
提言者	朝倉郡筑前町立三並小学校　　床島　光（福岡県）

提言２

研究主題	児童生徒の豊かな人間性の育成
副主題	児童生徒の自主的な活動に繋がる取り組みから
協議の柱	児童生徒が主体性および協働性を持って活動できる工夫と、教頭と担当(関係機関)との関わり
提言者	宮古島市立鏡原中学校　　座間味　浩二（沖縄県）

提言３

研究主題	地域との連携を深め、地域の教育力を生かすための教頭の役割
副主題	コミュニティ・スクールの取組を通して
協議の柱	地域との連携を深め、地域の教育力を学校教育に生かすための教頭の役割はどうあればよいか
提言者	延岡市立南小学校　　淵上　博司（宮崎県）

指導助言者	生涯学習課　副主幹　　酒匂　美貴子
指導助言者	西都市立穂北小学校　校長　　押川　由美恵

【提言Ⅰ】福岡県朝倉郡筑前町立三並小学校
教頭 床島 光

Ⅰ 質疑応答

Q1 最初の基準である全国学力テスト（以下全国学テ）の結果は最後の結果も同じ集団のものなのか。

A1 データの結果については現時点の 6 年生のため、同一集団の変容結果ではない。課題の発見が全国学テの結果だったので、その視点からデータを活用した。厳密には微妙な部分もあり、結果としての取り扱いは難しいと感じている。

Q2 教職員の参画意識を高める提案はよかった。違う意見の職員の意識を同じ方向にするためにはどのように考えているか。

A2 なかなか共通理解ができていないのが現状。ベテランの職員へは日ごろからのコミュニケーションが重要。特に今までの経験がないものに関しての提案についてはその影響を強く感じる。若い職員も含め、どの世代でも基本は日々の関わりとコミュニケーションが大切となる。どの学校種においても教頭の資質として職員の「自己肯定感を高める」ことが大事だと感じる。

Q3 「下学年が上学年へのあこがれ」について下学年のアンケートはとっていないのか。本当にあこがれとして受け止めているのか。

A3 下学年まではアンケートをとっていない。実践例による実感はあるが、数値化できていない部分がある。また、検討したい。

Q4 地域、保護者への理解、普及についての何か取組があれば教えていただきたい。

A4 朝倉郡全体としては言い難いが、現在の勤務地では課題として発信している。学校運営協議会にて活動も行っている。例としてカード記入による子どもたちへの言葉かけやテレビメディアの活用がある。

Ⅱ 研究協議

1 教職員の自己肯定感を高めることの内容について協議し、さまざまな世代、価値観のある職員全員に納得感が生まれるようにするには賞賛することが一番効果的とまとまる。また、「ミドル世代のいない環境」についても話題となり、OJT の活用の工夫についても話合われた。加えて自身含め「自己管理（セルフカウンセリング）」についても重要であることを再認識した。

2 様々な取組に関する時間の確保をどうするか話し合い、主に次の 3 点にまとめられた。

① 職員の時間確保のための ICT 機器活用

② 施錠の時間を利用してコミュニケーション（課題を見つける・日常の FB ）

③ 課題提案に関する取り組みの見える化と対応（ICT 機器等を活用して）

Ⅲ 指導助言

＜宮崎県生涯学習課副主幹 酒匂 美貴子＞

○「『自己肯定感』の捉え方についてのポイントは「文科省 第十次提言 Ｈ２９」を原則としている。

◎ 本研究のよさ

・ 研究を行う上で、課題意識が明確である。地域の共通課題として捉えるだけでなく、研究の成果を数値の変化で見ることができ、客観的根拠に基づいて分析できていた。

・ 「自己肯定感を高める」という明確な課題意識があるからこそ、教頭同士が同じ意識をもって各学校で取り組むことができ、成果を挙げることができたと考えられる。

・ 研究教育活動の工夫の２点（①授業における指導方法の工夫 ②異年齢集団による諸活動の工夫）が、自己肯定感の向上に適した内容である。

「授業における指導方法の工夫」については児童が「できた」「分かった」と実感でき、他者と関わりながら学ぶことのよさや楽しさを感じることができるように仕組みを考えることが「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業改善につながっており、そのことが自己肯定感を向上させた要因であるといえる。

「異年齢集団による諸活動の工夫」については高学年の児童に任せたり、課題意識をもたせて教師と一緒に考えたり、児童が主

体的に活動できるような支援をしている。特に、東峰小学校の取組の内容は、子どもたちの自己肯定感を育む手立てとしてどの学校種でも参考にできる内容であり、家庭や地域での子どもたちとの関わり方としても是非啓発していただきたい。

・　研究の実際について、①ともに考える、②見守る、③価値づけるという流れで共通実践しており、教頭の関わり方が明確になっていることがよい。特に、それぞれの取組・活動の目標や目指す子どもの姿を常に意識させ、担当者に気付かせる「ともに考える」場面、指導を抑えアイディアをあわせ練り上げさせる「見守る」場面、子どもたちの姿の変容を見取り、その姿を価値づけたり賞賛・感謝したりする「価値づける」場面等々、教頭の関わりが目に浮かぶと共に、教職員がやる気になっていく姿が想像できた。子どもたちの自己肯定感の向上だけでなく、教職員一人一人の自己肯定感の向上にもつながったと考える。このことが、「教員の教育活動への参画意識の変化」に表れている。

○　さらに取組を充実させるためのポイント

・　自己肯定感が低い要因は多岐にわたり、要因を分析する必要がある。学習面でいえば「できない」「分からない」と感じている要因が、物的環境によるものか、人的環境によるものか等、教職員で要因について細かく分析することで、さらに効果のある取組ができると考えられる。

・　自己肯定感の育成には、学校・家庭・地域それぞれに役割があり、それらが連携・協働することでさらに効果を上げることになる。非認知能力であるコミュニケーション能力、思いやり、粘り強さなどは、学校だけでは身につけさせることはできないと考えられる。今回の研究では、地域との連携・協働について触れていないが、質疑応答の中も各学校で地域と連携・協働した取組について話題もあがったため、今後は、子どもたちの自己肯定感を学校・家庭・地域が連携・協働して育むという視点での研究を考えられても面白いのではないかと考える。今後もより実りある研究となることを祈念している。

【提言2】沖縄県宮古島市立鏡原中学校
教頭 座間味 浩二

Ⅰ 質疑応答

Q1 椎葉村では中学校で寮に入り高校で村を出る。宮古島において中学校卒業後に島を出た子どもたちはどれだけ村に戻るかを調査したことがあるか。また、島のことをよく知っている子どもたちと職員とのかかわりはどのようなものか？

A1 島に子どもたちが戻ることを、島民は期待している。限られた職種ではあるが、戻ってくる子どもたちも多い。戻ってきた若者が青年団を作り、島の中学生にエイサーなどを教えている。教員は2年で変わるため、確かに子どもたちのほうが島のことをよく知っている。教員はできるだけ地区に入って、一緒に地域行事等に参加し、地域になじむ努力をしている。

Ⅱ 研究協議

1　離島として戻ってきてほしいという気持ちと頑張ってほしいという気持ちを持っている。行事にかかわる児童の数も減ってきている。その中で地域とどのようにかかわるかが大事である。ボランティアとして職員に参加してもらう橋渡し役が教頭である。

2　体験活動を通して学校では見られない子どもたちの姿が見られる。しかし、教頭の負担が増える。地域の行事は土日に行われるものも多いため、授業の中に取り入れることが難しい。地域と学校の育てたい子どもの姿にずれがあることもよくある。地域のコーディネーターを頼りに地域行事とのかかわりを深めていけたらと考えている。

3　教頭は顔つなぎが大事だと考える。地域や関係機関の方々と上手に連携した組織づくりの

充実で、負担も減っていくのではないかと思う。地域の実態に即して人をつなぐことの大切さを感じた。

4　児童・生徒の主体性を育てるためには授業が大事である。キャリア教育を充実させることで、自分で考える子どもたちが育つのではないだろうか。外部機関での体験を通すことで子どもが主体的に考えることができる。学校は調べ方を教えたうえで、子どもの失敗を認め、支援していくことが大切である。

5　児童会・生徒会を活性化させ、子どもが主体的に問題解決できるように支援していくことが大事である。教頭として、地域との連絡調整を行うことが大事である。

6　キャリア教育（職場体験や社会人講話）が大事であると感じている。感染症の影響で、職場体験をお願いすることが難しくなってきている。また、家庭訪問の減少で地域との関わりがさらに少なくなってきている。教頭が地域との渉外を引き受けることも大事であるが、人材教育の意味でも若い先生方に地域との連携をさせていくことも大切であると考える。

Ⅲ 指導助言

＜西都市立穂北小学校 校長 押川 由美恵＞

1　研究の取り組みの良さ

○ 可能性を引き出すための個別最適な学びと協働的な学びを取り入れることで、他者との協働学習から自主的な学習につなげることができている。

○ 児童が主体的に活動に取り組めるように、所属感を高めるための学校スローガンを設定したり、折り鶴づくりに取り組んだりするなど、有効な手立てが取り入れられている。

○ 自立を見据えた取り組みにより、あらゆる他者を価値ある存在と認めて尊重すること、多様性を認め合うことができている。

2　今後考えていただきたいこと

○ 他人に決められたことを実践することだけではなく、自分で選択して主体的に取り組むことのできる子どもを育成することが大事である。

○ 取り組みへの温度差をなくしていくために、経年変化も含めたエビデンスも必要である。

○ 担当者だけでなく誰でもできるような人材を育成していくうえで、教頭の役割が大事である。

○ 校内支援体制のさらなる充実を図るため、カリキュラムマネジメントの推進も大事である。人的・物的な環境づくりについて学校だけでは難しい場合、公的機関や地域の活用も大事になってくる。

【提言3】 宮崎県延岡市立南小学校
教頭 淵上 博司

Ⅰ 質疑応答

Q1 成果として出されている学校行事と地域行事をまとめることができたことについて詳しく教えてもらいたい。

A1 以前は学習発表会と地域の行事を別々に行っていたが、学校運営協議会で熟議を繰り返し、地域行事と学校行事を重ねて教育課程上に位置づけることで、一体化を図ることができてきた。

Q2 学校運営協議会の会議を年間何度開催しているのか。またその予算の捻出方法を教えていただきたい。

A2 学校運営協議会は年間4回ほど開いている。小中学校で同時開催は年間3回ほどだが、各校種で独自に行っている会議を合わせると10回ほど行っている。予算は市から出されている。市の取り決めにより使用用途が決まっている。

Q3 自分の学校は合併3年目の学校でコミュニティースクールに苦慮している。教頭先生がどのような役割を担っているのか。子どもを含めた熟議でどのような意見がでたのかを教えてほしい。

A3 学校運営協議会との連携は校長先生の力によるところが大きいと感じている。学校運営協議会の立ち上げの段階において、子どもをとらえる上で、子どもを含めた熟議を行った。

夏休み中に行った熟議の中で学校園を地域で活用する案が出された。また、地域の踊りを運動会で復活してほしいという声を受けて、運動会で計画している。

Ⅱ 研究協議

1 地域との連携を深めることが大事である。学校の課題に対して地域がどのようにアプローチできるかを教頭が調整していくことが必要である。どんな子どもを育てるのかを学校と地域がそろえておくことで、一貫した連携ができる。

2 人選が大切であると感じている。協力してくださる方を選ぶことが大事である。また、大きな目標も大切だが、できることから始めていくことも大事である。教頭だけが動くのではなく職員にも学校運営協議会との連携の様子を知らせることも教頭の役目である。今後も継続していくために、負担のない取り組みに変えていく必要があると感じている

3 地域の方に応援してもらえる学校づくりが大切である。その上で、教頭の負担感は大きいと感じている。今後を見据えて役割分担をしていくことも大事ではないだろうか。地域の方が主導して行う行事や活動も今後増えていくのではないだろうか。持続可能な活動にしていくためにより多くの方に参加していく必要がある。

4 地域の願いと学校の課題が一致している場合は実現しやすいが、そうでない場合は、なかなか上手く進まないことも多い。集まる時間帯を工夫しながら、負担感の少ない活動にしていきたい。

Ⅲ 指導助言

＜宮崎県教育庁生涯学習課副主幹
酒匂 美貴子＞

1 取り組みの良さについて

○ 子どもたちの成長を支えるためには学校と地域との連携が不可欠である。その事例を示したことが意義深い。様々な方にアンケートを行って実態に即した取り組みを行ったことで意義のある活動になっていた。

2 さらにコミニティースクールを充実するために

○ 熟議の在り方について、学校運営協議会が主体となっていく必要がある。参加ではなく参画していただくことが今後必要である。当事者意識を委員の方に持ってもらいたい。

○ 学校運営の評価改善についての意見をいただくことも必要であり、子どものためになる活動であるのかを吟味しながら取り組みを決めていくことが大事である。そのコーディネートを教頭にお願いしたい。

○ コミュニティースクールの意義を管理職だけでなく、全職員に伝えていくことが大事である。

○ 時間設定やふりかえりのやり方、教育課程の編成の工夫等をお願いしたい。

○ これまでの活動の見直し、改善を行うことで、子どもが主体的に活動できる行事が精選される。熟議の中で子どもたちの姿を常に意識して話し合いを進めてもらいたい。

Ⅳ 全体総括

＜西都市立穂北小学校 校長 押川 由美恵＞

1 変化の速い現代社会を生き抜く子どもを育成するために

○ 全職員が同じ視点で指導・支援できる校内体制の充実が求められている。

○ 人工知能が人工知能を作り出すシンギュラリティーが起こり、コンピューターが全人類の知性を超えてくることが予想されている。

○ 人間の豊かさの定義が変わり、子どもの生き方も変わってくる。子どもが自分で判断、選択して行動できるような主体性を育んでもらいたい。

○ 価値観や特性を認め合う子どもたちを育てていってほしい。

○ 学校を運営していくうえで、情報を共有しながらともに活動できる仲間を増やしていくことが大事である。

第３分科会「教育環境整備に関する課題」

提言１

研究主題	教育的環境整備における教頭の役割はどうあるべきか
副主題	ＩＣＴ機器の整備と活用の充実
協議の柱	ICT を活用した児童生徒の学力向上と業務改善について、教頭としてどのようにかかわればよいか
提言者	阿久根市立脇本小学校　　横山　浩之（鹿児島県）

提言２

研究主題	教育の情報化に対応した教頭の関わりと魅力ある学校づくり
副主題	ICT の効果的な活用による業務改善を通して
協議の柱	１　教育の情報化への取り組み 　各県の教頭がどのように教育の情報化に取り組んでいるか、具体例とそれに関わる成果と課題 ２　ICT 活用を通した魅力的な学校作りのための教頭の関わりにはどのようなものがあるか、具体例とそれに関わる成果と課題
提言者	対馬市立豆酘中学校　　佐々木　貴（長崎県）

提言３

研究主題	学校・家庭・地域が連携した安全・安心な学校づくり
副主題	情報機器の効果的な運用と学校運営協議会等と協働する防災への取組
協議の柱	学校・家庭・地域が連携した安全・安心な学校づくりにおける教頭の役割
提言者	日南市立南郷小学校　　田中　寿幸（宮崎県）

指導助言者	教職員課　主幹　　矢括　尚義
指導助言者	日向市立財光寺南小学校　校長　　日髙　政志

【提言Ⅰ】鹿児島県阿久根市立脇本小学校

教頭　横山 浩之

Ⅰ　質疑応答

Q1 北海道の学校と遠隔交流授業をした経緯を教えてほしい。

A1 学校長同士が連絡を取り合っていた縁から遠隔交流授業の運びとなった。もし気になる学校があれば電話等で連絡してみてもよいと思う。

Q2 道徳の授業で実際に ICT を活用しての成果や課題を教えてほしい。

A2 校内研修で道徳を中心に ICT を活用してきた。資料提示や児童相互の意見交換などでロイロノートを活用している。3年生以上では毎時間活用している。低学年は二人で1台使うなど発達段階に応じて工夫し、中学年での学習に繋がるようにしている。学級内でタブレットの機種が違うことや一斉に使用することによるWi-Fiの繋がりにくさに課題がある。ラン回線の改善は今後も必要である。

Q3 ICT を活用する中で見えてきたアナログの良さを教えてほしい。

A3 職員会での提案文書を事前に職員に送信しておくことで、会議は質疑応答から入ることができる。それに伴って時間短縮を図ることができたが、ICTのみで分かりにくい場合やコミュニケーシが取りにくい場合は、職員間で、対面で確認する様子が見られた。

Q4 メールシステムの活用について、市町村でシステムは異なっているのか、職員の異動にどう対応しているのか教えてほしい。

A4 メールシステムは、市町村で異なっている。異動者への対応は、教頭やシステム会社がサポートしている。阿久根市内は同じものを使っているので、市内の学校間でのやり取りはしやすい。保護者とのメールシステムは各学校で異なる。

Q5 タブレットの持ち帰りの状況について教えてほしい。

A5 タブレットの持ち帰りは、阿久根市はどの学校も行っている。本校では4年生以上で、主に週末に持ち帰りを実施している。持ち帰りの声掛けに加え、持って来ることへの声掛けも必要で、各学級担任が指導している。低学年については、学校での使用に留めている。Wi-Fi が繋がっている家庭と繋がっていない家庭があり、活用の仕方は個別に対応している。

Q6 複式指導における同時間接指導と ICT 活用について教えてほしい。

A6 電子黒板（左右分割画面）を見ながら一人の授業者が2学年の授業を行っている。単元によって異なるが、左右の板書を関連付けて指導することができるので指導しやすい。

Ⅱ　研究協議

1　AIドリルの活用を教頭として職員に積極的に呼びかけている。e-ライブラリーも学校全体で積極的に取り組んでいる。

　ICT 活用に消極的な教職員への対応については、市全体でその解決に向けて取り組んでいる。教頭としては、個別に研修の必要な職員に声掛をかけ、研修の機会を与えるように配慮している。校内研修の中で職員の実態把握を行い、苦手な職員には、教頭がT2となって個別に支援するようにしている。

2　業務改善にICTを積極的に活用している。多岐にわたる教頭業務の働き方改革を、ICT を活用して積極的に進めたい。ICT活用のスキルも求められているので、高度な ICT 活用能力が必要となることがないとありがたい。

　児童のタブレット持ち帰りに伴う危険性にどう対応していくか、情報モラルを含めた今後の対応が求められる。

3　校長・教頭の働き方改革がなかなか進まないように思われる。PTA 活動との関わりについての改善が必要であるが、異動もあり、短期間に大きな改革を行うことが難しい現状がある。

Ⅲ　指導助言

＜宮崎県教育庁教職員課 主幹 矢括 尚義＞

1　テーマ設定について

市の基本目標と研究内容がしっかりとリンクしているよい共同研究である。

2　学習端末の整備と活用推進の取組について
4種類のタブレットの使用に伴う苦労もあると思うが、同じ悩みを抱える自治体の参考となった。
3　研修内容の実施について
県主催の研修に加えて市独自の研修も実施し、支援企業の活用もしており、参考となった。
4　ICT を活用した授業実践について
思考ツールの活用は、児童の思考を可視化する上でも対話に繋げる上でも有効である。教科学習だけではなく、学級の問題解決にも活用できるので、日常生活に生かす工夫も今後ぜひ取り組んでほしい。
5 遠隔授業の実践について
多様な考え方を育成する上で非常に有効な手段であるであるから、継続的に実践してほしい。
6 小規模校における複式指導での活用について
複式指導においては「わたり」「ずらし」同様、ICT 活用が大きな武器になる。多様な考え方につなげる手段にもなる。
7 個別最適な学びのための活用について
AIを活用した個に応じた学習の選択は、通常学級に在籍する子どもたちだけでなく、特別な支援を要する子どもたちへの手立てとしても有効である。
8 ICT活用による業務改善について
会議の縮減や効率化、学校間や保護者との連絡等においてICT活用は有効である。ICT がもっているデータの共有化、蓄積、利便性等の強みを今後も業務改善や働き方改革に生かして活用してほしい。
9 その他
教職員の働きやすい職場環境、働き甲斐のある職場環境作りに ICT を有効に活用することができる。どのような場面でどう活用するかを考察することが、教師のウェルビーイングに繋がっていく。
デジタルとアナログの使い分け、バランスのとり方を考え、自治体の教育方針や学校の教育目標とリンクさせながら、どのような場面で、どのような方法により目指す児童像に繋げていくのか教頭として全体を動かしながら各学校で議論していく必要がある。

【提言2】長崎県対馬市立豆酘中学校
教頭　佐々木 貴

Ⅰ 質疑応答
Q1　職員会議等で ICT 活用することによる変容について
A1　職員会議での発言を欠くことで時間短縮になったが、その場で出された意見によって長引くことや突然の質問が提案者の負担になることもあった。
Q2　欠席メールの確認方法について
A1　欠席モニターは職員室でのみ見ることができる。メールは職員タブレットでも閲覧することができる。
Q3　ICT 活用とともに対話によるコミュニケーションを大切にしているが、実際の先生方の声について
A3　教頭と教務主任の間で職員の動静について対話で確認を行った。ロイロノートの活用法について、若手と対話ができた。
Q4　デジタルとアナログを使い分けた実践例について
A4　少人数のアンケートでは、紙のほうが早い場合がある。人数が多い場合は、ICT アンケートのほうが集約しやすく、時間短縮になった。

Ⅱ 研究協議
1　「PTA を魅力的にする」PTA サポーター制度として参加する人を募っている。（一人一役ではない）参加した保護者は授業参観ができる・運動会観戦席の優先等の特典がある。「地区を魅力的にする」自治会から地域の行事をお知らせして参加を促す。
2　県によって取り組みが違っていた。ペーパーレス化が進まない県もあった。県によっては、個人のスマホを使用できない県もある。各県のよいところを参考にしていきたい。
3　校内のペーパーレスは進んでいるが、保護者へのペーパーレスが進んでいない。教頭の業務改善につながっていない部分もある。宮崎県は全県で C4thを取り入れている利点はあるが、不便な面もある。
4　ペーパーレス化には職員の意識改革が必要である。ペーパーレス化を事務職員と連携して進めた。
5　教科担任制を導入したが、教務主任の時間割作成が大変である。
6　異動してきて初めてC4thを使い戸惑った。簡単

なマニュアル作成が必要である。今後、生成AIの活用も必要である。新しいものに好奇心をもって取り組むことも必要である。

Ⅲ　指導助言

＜宮崎県教育庁教職員課 主幹 矢括 尚義＞

C4th導入や児童生徒へのiPad導入、Googleアカウント付与など参考になった。

普及に伴う教頭の役割について、「業務改善の視点4S」は参考になった。4つの視点でICT活用を整理するとよい。

C4thによるペーパーレス化によって、職員会に不在の教員による事前の意見発言や職員会の廃止等、子どもと向き合う時間が設けられていた。

各職員による行事予定の入力は、教務主任の業務削減になっている。教頭だけでなく、教務主任の業務削減も大事である。

Googleカレンダーやドライブの活用により教員の情報共有が図れている。

安心メールによる業務改善が図れている。家庭によっては紙媒体や電話が必要な家庭もある。

ロイロノートや Google による学期反省や保護者アンケート、学校評価等は中・大規模校の業務改善につながっている。アンケート後のデータ活用や共有が図れている。

教頭業務の具体的な取り組みが参考になった。次年度の教頭への引継ぎ等も必要である。ICT の効果的な活用と業務改善は大きな成果である。

ICT 活用のために、若手とベテランの OJT が必要である。環境整備は自治体との連携が必要である。

ICT 活用の教頭の具体的な取り組みについての話だったのでとても参考になった。

【提言3】 宮崎県日南市立南郷小学校

教頭　田中 寿幸

Ⅰ　質疑応答

Q1　学校運営協議会で育てたい子どもの資質能力と防災の関連について

A1　学校運営協議会で育てたい3つのカテゴリーに命に関するものがあり、地域と連携を図っている。

Q2　保健主事や安全担当職員への教頭としての働きかけについて

A2　職員は、校内の避難訓練を実施している。

Q3　保護者への引き渡し訓練の実施について。中学校との連携について。大規模校における総合学習での防災教育にいて。

A3　宮崎県は、引き渡し訓練をやっている学校は多い。中学校との連携は、教育課程の関係でできていないが、兄弟関係で参加した中学生がいた。総合学習で3時間防災教育を設定している。校外学習中に防災教育を位置づける予定である。

Ⅱ　研究協議

1　引き渡し訓練を、保護者以外の方が来た時の対応を事前に確認している学校があった。訓練で交通渋滞のため地域からクレームがあったので、地域との連携が必要である。事前に引き渡しルートを説明する必要がある。確実に引き渡せる職員による訓練を実施した学校があった。安心メールを地域への登録をしている学校があった。県によっては、職員のスマホ持ち込みが禁止の学校があるが引き渡し時には必要ではないか。

2　地域との連携について、時間外や休日に管理職が参加する現状がある。学校運営協議会に職員も巻き込み、職員にも当事者意識をもってもらい、地域に参加してもらうきっかけにする。地域に管理職以外の職員も連携できるようにする。

3　熊本地震の経験談を伺った。想定外のことが発生していたので事前準備が必要である。子供の心のケアが必要である。学校運営協議会で防災も話題にしていきたい。防災の小中連携を実施してみたい。

4　熊本地震の経験談を伺った。学校が避難所になったとき、教頭が中心になって動いていた。その後、地域との連携や県からの備蓄の動きが変化した。地域との連携は必要である。

5　今後の課題として、災害発生時や事後の対応について考えていきたい。地域への安心メールの加入を取り入れてみたい。持続可能な防災訓練について実施していく。各地区の防災訓練を学校からも発信する。

Ⅲ　指導助言

＜日向市立財光寺南小学校 校長 日髙 政志＞

安全・安心・防災の手段として、学校・家庭・地域の連携についての取り組みについての話しだった。

「危機管理5つの過程」は参考になった。

情報機器の効果的な活用について、迅速な判断は子供の安全を守るために必要である。判断の根拠として PC・スマホ・テレビから情報を得るとよい。

実際に避難訓練をしたことがよかった。メリット・デメリットが明確になっていた。

行政や関係機関との連携について、現場から声を上げて、現状を明確にすることが大切であり、学校運営協議会で熟議していた。

課題・対応策として、安心メールの登録の徹底と未登録者の確認が必要である。生徒カードに安心メールの登録確認を明記や、家庭訪問で確認をする方法もある。早期に確認する必要がある。

コミュニティースクールにおける委員の設定で、人材を選ぶことは大切である。例年通りのあて職にせず、ともに活動できる人をしっかりと人選する。

Ⅳ　全体総括

＜日向市立財光寺南小学校 校長 日髙 政志＞

協議全体を通して、各県市町村を超えた意見交換の機会は滅多にない。いろいろなアイデアに出会えたことがよかった。

教育環境整備について

1　教育の情報化について 九州校長会にて、ソサエティ5.0 やシンギュラリティ等、人工知能が人工知能を生み出す時代が来る。私たちも好奇心をもって、前向きに学ぶことが必要である。

2　児童生徒の安心・安全について 安全教育・安全管理を一体的に行うことで児童生徒の安全が図れる。登下校の安全について、家庭・地域との連携が必要である。学校・家庭・地域が目標を共有する。学校の課題を明確にする。教育課程に位置付ける。地域の方は、できる方ができる範囲で行ってもらう。

3　学校の施設整備について 毎月安全点検を実施しているが、点検後に誰が修繕するのか確認する。行政による修繕も必要である。日々の点検も必要である。

4　公金管理について

準公金の管理を確実に行う。

第４分科会「組織・運営に関する課題」

提言１

研究主題	全職員参画の組織づくりを推進するための教頭の役割
副主題	一人一人の良さを生かし、みんなでつくり上げる学校を目指して
協議の柱	全職員が参画する組織づくりを推進するための教頭の役割
提言者	宇土市立宇土東小学校　　那須　亮作（熊本県）

提言２

研究主題	地域とともに歩み続ける学校であるための教頭の役割
副主題	本場鶴崎踊大会の取組を通した持続可能な連携をめざして
協議の柱	学校と地域と家庭との持続可能な連携とはどうあるべきか、教頭として何をすべきか
提言者	大分市立鶴崎中学校　　坪根恭平（大分県）

提言３

研究主題	義務教育学校の特色を効果的に生かした学校運営
副主題	１１年間の連続性のある学びを支える組織づくり
協議の柱	より充実した一貫教育を推進するための学校運営はどうあればよいか
提言者	美郷町立美郷北義務教育学校　　興梠　晋（宮崎県）

指導助言者	生涯学習課　課長補佐　　中村　敏彦
指導助言者	宮崎市立那珂小学校　校長　　川島　博嗣

【提言Ⅰ】熊本県宇土市立宇土東小学校

教頭 那須 亮作

Ⅰ 質疑応答

Q1 若手教員のフレッシュ部会で出た疑問やアドバイスにはどのように対応しているのか。

A1 基本的に若手教員の担当をしている主幹教諭が相談等の対応をしている。昨年度はフレッシュ部会をうけての質問等はなかった。

Q2 教頭の出身校だったため、連携がとりやすかったとのことであったが、次の教頭に引き継ぐために工夫したことはないか。

A2 主幹教諭の出身校でもあったため、主幹教諭につないだ。教頭への引継は特に行っていない。

Ⅱ 研究協議

1 毎年、教職員の入れ替わりがあり、適材適所に人材を配置することの難しさがある。今までは、年長者が学年主任をすることが多く、ミドルリーダーを育成できていなかったと感じる。今年度は、教職員の様子を見ながら、興味のある分野や適切な役割等を分析している。教職員との関係づくりを通して、校長に具申していくことで、次年度の組織づくりに活かせるのでは考える。

2 若手育成のため、年3回の会を設け、働き方改革の視点からどのような職場にしたいかの意見を出してもらっているという学校や、職員に自分の強みは何かを挙げてもらい、全体で共有する取組を行ったという学校があった。また、校務分掌の主任、副主任について、業務の分担を自分たちで話し合わせて決めさせることで、若手育成につながっているという報告もあった。一方で、ベテランの教員をどう活用していくかが難しいという意見も出た。

3 ミドルリーダーを育成するには、ベテランの教員の力を借りながら根回しをしていくことが大事ではないか。教頭がリーダーシップを取り、学校の教育目標を具現化する過程において、ベテラン教員もその流れに乗ってもらうような流れを作ることが大事だという意見が出た。

4 職員構成のバランスがよくない。ミドルが少なく、ベテランと若手が多い状態である。ベテラン教員に若手教員のアドバイザーになってもらい、主任等も若手教員に任せながらアドバイスしてもらっている。若手教員を育てるのは日常の業務の中で相談等しながら行っていくしかない。

Ⅲ 指導助言

<宮崎市立那珂小学校 校長 川島 博嗣>

大きく4点について話をしたい。

1つ目は、組織マネジメントである。教頭として、学年主任、校務部長、研修部長が学校目標に向かって進む際のファシリテーターとなっていた。さらに、それぞれの取組が教育目標の実現に向け、同じベクトルになるよう方向付けていた。2つ目は、ミドルリーダーの育成である。教頭として、中長期的な視点で学年主任、校務部長、研修部長をミドルリーダーとしてしっかりと育成していた。「任せ上手が職員を育てる」という言葉通りの実践であった。3つ目が若手の育成である。教員の精神疾患が過去最多となっている。特に20 代の疾患が高くなっている。今年5月に中教審答申で出されたパンフレットには、若手教師を支える体制を構築するため、若手教師と年齢が近い中堅教師や、経験豊富なベテラン教師に気軽に相談するということが示されている。提言にあったフレッシュ部会は、30 分限定、成果物なしで開催されており、まさに若手の育成につながるものだと思われる。最後に本校の教育的課題について整理していきたい。1 つが地域の教育力の活用である。学校運営協議会をうまく活用し、学校と地域をつなぐ役割を果たしていた。今後さらに、学校としてどこを目指していくのかを明らかにしていくことが大事な視点ではないかと考える。地域と学校が、一方通行はなく、双方向の関係を築くことが大切である。そのためには、学校がいかに地域に貢献していくかが大事だと考える。もう一つの課題が、教員一人一人の力を学校力へということであった。一人一人の教員の力が向上すれば、ひいては学校の力が伸びていくことにつながる。子どもたちの学び（授業観・学習観）とともに、教師自身の学び（研修観）を転換する必要があると言われている。教職年数を重ねるうちに、当然、自己課題が変化していく。だからこそ、全員参加で一律の校内研修だけでは、自己課題に十分対応できない状況が懸念される。これからは個別最適な学びを重視していく必要がある。

研究の成果として、「ミドルリーダーを中心に学校が有効に機能していた」という文言があった。各学校の参考にもなったと思う。

【提言2】 大分県大分市立鶴崎中学校

教頭 坪根 恭平

Ⅰ 質疑応答

Q1 鶴翼会の行事への参加について、生徒の主体的な取組があれば伺いたい。

A1 生徒の主体的な参加は、今後の課題と考えている。総会で生徒が司会を担ってきた経緯はあるが、要請があれば参加する形になっている。設立目的は説明しているが、そこまでは至っておらず、当日の打合せに参加するまでにとどまっている。

Q2 教頭としての働き方改革として、他の教員に任せた部分があれば伺いたい。

A2 地域連携担当として昨年度から携わっていることから、各学年に分掌担当がおり、各行事に参加してもらっていることを踏まえ、活動の主となる2学期以降は、各担当に任せていこうという見通しをもっている。

Ⅱ 研究協議

1 PTA、地域、学校等、各地域の実情に応じて、見直すべきところは見直していくことが教頭の仕事ではないかと考える。ただ、教頭一人で抱え込まず、周りと一緒に進めていく組織改革が、持続可能な取組につながるのではないか。持続可能な取組では、児童生徒の意識が大切になる。児童生徒がどういった意識をもって活動に取り組み、活動を通して価値に気付き、故郷を愛する心情につながっていくことを踏まえると、児童生徒の主体的な取組について考える必要がある。

2 コロナが明け、コロナ以前と同じことをそのまま復活させようとしている動きがある。その中で、学校として地域学校協働活動を進めるにあたり、学校運営協議会の存在は大きい。公民館長等、地域の要となる方に、学校のことを理解してもらったうえで、学校と地域の立場で調整を担ってもらい、よりよい関係を築いていくことが重要である。また、地域と対話を重ね、新たな形を模索することも重要であり、教頭に限らず、学級担任等が参加する機会を設けることも大切ではないか。

3 学校と地域の目的はそもそも違うはずであり、伝統が始まった経緯等、伝統について学ぶ機会の設定など、将来の担い手になる生徒に動機付けを学校が担い、地域は地域でそういった学校教育について知ってもらうといった形で進めることも必要ではないか。

4 地域と学校との連携において、学校であれば、働き改革の視点から教育課程の中で行うことで負担軽減につなげられるのではないか。また、ボランティア等は、担当を割り振るのもよいとの意見が出た。地域では、行政等でとりまとめを行うことも負担軽減につながると思われる。教員の意識も変わってきているため、何のために参加するのかといった必要性を説明することも必要であり、子どもファーストで考えていく必要がある。

5 よい連携の共通点は、地域も教師も生徒も楽しめるものか。次に、教育課程として効果・効率的である、あるいは、子どもたちにとって魅力があるか。最後に、やり続けていくことが誇りにつながるか、参加したことが誇りに思えるかである。学校と地域が対話をし、魅力を高めるようなアドバイス等をしていくことが大切である。

Ⅲ 指導助言

＜宮崎県教育庁生涯学習課

課長補佐 中村 敏彦＞

提言について、素晴らしいと思ったことを挙げたい。

まずは、地域の子どもは地域で育てる土壌ができているということ。そして、コミュニティ・スクールが導入されていること。加えて、地域学校協働活動推進員まで配置されていることである。これは、地域と学校が連携して活動を推進する環境が整っているということであり、持続可能になる可能性を十分に秘めていると感じた。地域学校協働活動推進員等の配置がなければ、その役割を教職員が担うことにもなり、配置されることによって、教職員の負担軽減につながると考える。

また、坪根教頭の地域と学校をつなぐ働き、そして学校内の教職員をつなぐ働きは、まさにコーディネーターの働きである。そうした働きには3つの要素があると言われている。1つ目が「フットワーク」、2つ目は「ネ

ットワーク」、3つの目が「チームワーク」である。地域、校内とベクトルをそろえながら、一人で抱え込まず、組織的に動くことをしっかりと実践していると感じた。こうした動きは、教頭としての重要な資質であり、参考になる取組である。加えて、教頭として大事なことは、校長と常に情報を共有することである。動く前、動いた後と、常に校長と情報を共有し、校長と一心同体という気持ちで動くことが重要である。

ここで、地域と共に歩み続ける体制づくりについて話をしたい。地域と共に歩み続ける体制づくりは、コミュニティ・スクールが鍵と考える。しかし、「コミュニティ・スクールって何？」という状況が散見される。そのため、まずは周知理解が大切となる。学校運営協議会において大事なことは、地域住民が一定の権限と責任をもって学校運営に参画することである。育てたい子ども像、目指すべき教育ビジョンを共有し、実現に向けて協働する仕組こそ、コミュニティ・スクールであり、地域と共にある学校づくりとなることを理解してもらうことから始めていただきたい。

また、学校運営協議会は合議体であり、個人の意見に流されることはなく、皆で方向性を決める過程が大事である。学校運営の基本方針等の承認にあたっては、未来を担う子どもに必要な教育は、学校だけで行うものではないという前提に立ち、協議、修正を繰り返しながら話合いによって行うことが重要である。学校運営協議会委員の皆さんには、当事者意識をもち、OK ではなく、Let's の気持ちで承認するようにしていただきたい。そのためにも、教頭には、3つのワークを生かしながら学校運営協議会委員の皆さんと信頼関係を構築して、運営していただきたい。

【提言3】 宮崎県美郷町立美郷北義務教育学校
副校長 興梠 晋

Ⅰ 質疑応答

Q1 11年間にわたるカリキュラムはどのように作成するのか。

A1 前期、後期の各課程で作成している。意識していることは、幼稚園から小学校、小学校から中学校といった接続の部分である。次の課程を体験する活動や季節の活動等、つながりを意識した活動を取り入れている。そうした活動によって、中1ギャップの解消にもつながっていると感じている。

Q2 小学校、中学校で発達段階に違いがあり、職員の意識も違うと思うが、どのように調整されているか伺いたい。

A2 以前は、小学校、中学校の文化の違いがあり、歩み寄れない部分もあったように聞いている。現在は、1つの職員室の中に、幼稚園、小学校、中学校の島があり、情報共有できる環境が整っている。校種に関わらず職員が歩み寄っている場面が見られ、コミュニケーションがとれていると感じている。教頭の役割として、こうした状況をつないでいきたいと考えている。

Ⅱ 研究協議

1 小学校と中学校の文化の違いを感じるといった意見や中学校では進路決定もあるので、違いがあるのではないかといった意見があった。そういう中でも、教職員が意見を出し合い、共通実践事項の確認、合同運動会、縦割り清掃等の取組を行っているようである。実際、共通目標を決めても、なかなか定着しないといった課題も出たが、教頭間の連絡調整を密にしながら実践を続けていくことが大事ではないかと考える。

2 中学校教員の専門性を小学校に生かすことは大変効果的であり、互いに合意形成を図っていくことが必要である。小中連携の視点からも、小学校で教わった教員が中学校にいることが子どもの安心感につながるなどのメリットがあるので、乗り入れ授業は積極的に行っていくことが大事と考える。また、校時程の調整などの課題を考えると、教職員の固定観念を変えていくことも必要ではないかと感じる。

3 幼保小や小中連携においては、相互授業参観や同じテーマでの研修等、共通のカリキュラムや目標を設定して取り組んではどうか。働き方改革などで難しいとは思うが、小学校、中学校の情報交換がもっと多くできるようにする必要がある。

Ⅲ 指導助言

＜宮崎市立那珂小学校 校長 川島 博嗣＞

3点、話をさせていただきたい。

まず、働き方改革である。中教審委員である妹尾さ

んの話の中で、「時計の針が一周するくらい学校にいることを当たり前と思っていませんか？」と投げかけられたことがある。働き方改革の第一歩は、年間を通した勤務時間の確実な把握と考える。美郷町では3校とも時間外の時間をしっかりと把握しており、全国平均の小学校 41 時間、中学校 58 時間と比べて、かなり少ない状況である。業務の効率化に向け、様々な取組がなされている成果ではないか。

次に、義務教育学校ならではの教育活動について、3つ話をしたい。1つ目は異学年交流活動である。年間を通して、同じ集団で、継続して行うことで、学習意欲や規範意識の向上等、大きな成果が出ていると思われる。2つ目は教科担任制である。後期課程の教員だけでなく、前期課程の教員が教科担任を務めることにより、一部ではなく、9年間を見通した教科担任制が展開されている。授業の質の向上や多面的な児童生徒理解につながるなどの様々な効果が出ていると思われる。3つ目は、部活動担当である。美郷町において、指導だけでなく、引率もでき、報酬が発生する部活動指導員を4名配置していることは大きい。全国の平均的な土日の部活動勤務は3時間 45 分であり、美郷町は0時間である。大変大きな成果であり、部活動業務の負担軽減につながっていると思われる。

最後に、今後の課題である。業務分担・内容の見直しについては、今やっていることが当たり前ではないという認識で、思い切ってやめる、減らす、統合するといった仕分けと精選が必須である。次に、改善点を校長に具申することについてである。教科担任制が小学校教員にとっては負担軽減につながっているかもしれないが、中学校教員にとってはどうかという話があった。以前行った各学校の教員の1日における教材研究・授業準備時間のアンケート調査によると、一番多い学校で 111 分、一番少ない学校で 59 分となり、平均すると 71 分となった。管理職としては、難しい面もあるが、勤務時間内に教材研究の時間を確保することも課題になると思われる。

Ⅳ 全体総括

＜宮崎県教育庁生涯学習課
課長補佐 中村 敏彦＞

それでは今回の提言を振り返ってみたい。

まず、提言 1 について、組織づくりの観点から、校長の教育ビジョンを踏まえたうえで、どのように共通理解、共通実践を行っていくかがポイントだと感じた。教頭として、共通理解・共通実践を決めるまでのプロセスにどう関わるかが重要である。校長の意を汲んで伝え、教職員が同じベクトルで進んでいくことを心がけていただきたい。ミドルリーダーの育成について、ミドルリーダーがどう動くかで組織は変わってくるためミドルリーダーの存在は大切である。教頭として、ミドルリーダーとの報・連・相も密にし、よいところを多くフィードバックしながら、一人一人に責任と自覚をもたせるような話しかけをしていただきたい。若手教職員の育成については、フレッシュ部会の取組は効果的であると感じた。管理職だけではなく、みんなで育てる OJT に取り組んでいただきたい。教頭としては、伴走支援が大切であり、言葉かけ一つで変わる若手教職員もいる。やる気にさせる言葉かけをお願いしたい。

提言2について、持続可能な地域と学校、家庭との連携・協働においては、コミュニティ・スクールの充実が肝となる。コミュニティ・スクールの周知徹底、理解促進、そして学校運営協議会委員の当事者意識の醸成、各学校の教育課題に応じ、どのような柱で、どのように熟議を行うのか等、校長と十分に戦略を練ったうえでコミュニティ・スクールを運営していただきたい。

提言3については、美郷町における幼保小中の施設一体型義務教育学校のよさが伝わったのではないか。これから少子化等に伴い、学校の統廃合が増えることも予想される中、先進的な働き方改革など、美郷町の取組は先進モデルになると考える。教頭の皆さんには、校長への具申や改善を図りながら、地域と共にある学校づくりに努めていただきたい。

最後に、今回協議した内容は、教頭の業務の一部である。学校教育法には、教頭の職務内容として「校長を助け、校務を整理し、及び必要に応じ児童の教育をつかさどる」と記され、この一文に多くの業務が含まれている。教頭の皆さんには、今後も校長と良好な信頼関係を築き、健康に気を付けながら業務に携わっていただきたい。

第５Ａ分科会「教職員の専門性に関する課題」

提言１

研究主題	教職員の指導力向上を図るための教頭の役割
副主題	具体的取組と体制づくりの工夫
協議の柱	教職員が感じている困難さや課題について、副校長・教頭としてどのような取組や体制づくりを行っているか
提言者	神埼市立千代田東部小学校　　深川　治孝（佐賀県）

提言２

研究主題	コミュニティスクールを基盤とした地域との協働
副主題	幼・小・中・高・地域との連携における教頭の関わりについて
協議の柱	「社会に開かれた教育課程」実現のために、教頭として地域の人材・資源とどのように連携・活用していくか
提言者	北九州市立尾倉中学校　　田村　聡（福岡県）

提言３

研究主題	教職員の ICT 活用能力の育成を図るための教頭としての手だて
副主題	校内研修・授業改善の取組を通して
協議の柱	教職員の ICT 活用能力の育成を図るために、教頭としてどのような工夫や手だてをとることができるか
提言者	新富町立新田中学校　　長友　智子（宮崎県）

指導助言者	義務教育課　課長補佐　　石川　優子
指導助言者	日南市立榎原小学校　校長　　甲斐　寿尚

【提言1】佐賀県神埼市立千代田東部小学校

教頭 深川 治孝

Ⅰ 質疑応答

Q1 教職員の指導力向上を目指した具体的な取組と体制づくりについて、常時教職員が授業参観や合同参観が行えるようにA小学校では教頭としてどのようにコーディネートしたかを知りたい。

A1 まずは校長が、全教職員がいつでも授業をお互いに見に行くことを受容する働きかけを行った。そして、実際に授業を見に行きたいとなればすぐに実現できるように、教頭と教務主任で時間調整を行うことでコーディネートを行った。また、教務主任を中心に補填の授業に入り、気軽に10分～15分間でも授業を見に行くことも可能とした。教頭と教務主任がフットワークを軽くし、いつでもカバーできるような姿勢を普段から示していくことが大切である。

Q2 アンケート調査に先生自身の強みを集約する内容があったか。また、教職員の得意分野については、教頭としてどのように理解しているか。

A2 アンケートは3年計画で取り組んでいる。今後アンケートの見直しを考えているため、今後の参考にしたい。また、教職員の得意分野についてはA小学校で ICT 利活用の紹介を行った。B中学校では特別支援教育コーディネーターの育成を行った。

Q3 市内14校でどのように連携して、各校の好事例を共有しているのか。

A3 年度をまたいで市内14小中学校が連携している。 前年度の研究引継は4月に行い、教頭会の組織も含めて全体での共有を継続している。

Q4 フリートークタイムは、どのように捻出しているか。

A4 例えば休み時間や放課後の時間を多めに確保するなど調整し、無理なく柔軟に形を変えながら取り組んでいる。

Ⅱ 研究協議

1 質の高い教育環境づくりのための広木小学校（鹿児島県）の事例である。ホームページの通り、日課表（校時程）を見直し、午前中は1コマ40分間の5時間授業、給食、30分間の昼休み、そして週に1度6校時（45分間）と7校時（45分間）を行う。児童の昼休みは教職員の休憩時間ではなく勤務時間として、児童下校の後に正規の休憩時間を確保している。

2 教頭の役割としての人材育成については、トップダウンでは教職員の先生方には受け入れ難いものである。そのためには、若手を頼らせる組織づくりをするとよい。

3 押し付けない研修の一例が紹介された。研究授業者の人選として、日頃の授業を見てみたい先生の名前を出してもらうようなアンケートを取ると、選ばれた先生にも頼みやすくなる。そして、若手教員も能動的に研修を受けることができる。

4 教頭の共同実施について野母崎小学校（長崎県）の事例である。昨年度から教頭の共同実施を2ヶ月に1回行っている。若手の教職員に声をかけて、垣根を越えて悩みを聞いたり実務の課題の共有を行ったりした。参加者の反応がよかったため、今後も続けていく予定である。若手教員の横のつながりも取りもつことができる。

5 我々が育てようとする若手教職員の目指すゴールはどこにあるかを考えさせられる。

6 教職員の指導力向上を図るための豊崎中学校（沖縄県）の事例である。校内研修をなくし、命に係わるAED研修だけを校内研修で行うように精選した。自分の得意分野や解決したい分野を個人で研修を行っている。A4用紙1枚にアウトプットとし、全教職員で共有している。

7 神崎中学校（佐賀県）の事例である。特別支援教育に不安を抱えていたため、研修のマンネリ化を打破するためにも、まずは基本に返りWISCの数値が何を意味しているのか、なぜ受ける必要があるのか、正しい見方などについてのミニ研修会を行った。また、スーパーティーチャーを招聘した研修も実施した。

Ⅲ 指導助言

＜宮崎県日南市立榎原小学校

校長 甲斐 寿尚＞

○ 神崎小学校の提言のように、アンケート結果を多角的に分析し、課題を具体的に把握した上で研究

に取り組む姿勢こそ、学ぶに値することである。

○　提言から学ぶべき具体例は、若手教員の育成としてメンター制度が効果的であり、校内組織の構成や机配置など、日常的に自然と推進するしかけをつくること。また、授業力向上を目的としたグループ別のフリートーク環境や会議の設定、常時授業参観実施に向けたコーディネートなど、教頭が統括役として風通しのよい職場環境に努め、マネジメントすることも大事である。

○　教職員のさらなる人材育成として、マネジメントやコーディネートが重要である。特に若手教員の育成は、教頭の大きな使命ととらえ、管理職が入れ替わっても風土として根付かせていくことが大事なことである。

【提言2】福岡県北九州市立尾倉中学校

教頭　田村　聡

Ⅰ　質疑応答

Q1　地域コーディネーターはいるのか。校内に在駐しているか。

A1　地域コーディネーターはいるが、市型のコーディネーターは、いない。 地域の方なので、在駐ではない。連絡調整を教頭が行っている。

Q2　学校によって構成員が8名と11名で、人数のばらつきがあるが、どうやって選んでいるのか。

A2　構成員の人数は、各学校で決めている。各中学校区で、小学校と中学校でバランスをとりながら構成員を選んでいる。

Q3　市型の成果は教頭が提案だが、国型は校長なのはどうしてだろうか。

A3　学校経営方針は、もちろん校長が出す。教頭が学校運営協議会の会長と打ち合わせをするので、それをもとに教頭がまとめを出すようにしている。

Q4　CS を通して教職員の専門性についてどんな成果が高まったのか。

A4　専門性といわれると厳しい。小学校では地域とのかかわりがあって、それを生かす場面もあるが、中学校では地域とのかかわりがあまりないので、なかなか難しい状況である。

Q5　指針と学校運営の指針が違うがどうしてか。熟議を行ったのか。

A5　第1回目のCSで学校経営案の承認をしてもらっている。1回目は、熟議というわけではない。

Ⅱ　研究協議

1　宮崎県は、CS が最近始まった。地域と一生懸命つながろうとすると、地域に先生方が出ていかないといけなっていく。地域にとってはありがたいばかりだと思うが、学校の負担にならないようにするためには、「目的」をしっかりもって取り組まなければならないと感じた。CS は、地区ごとに財政等も違うので、めげずに続けていきたい。

2　まずは、教職員に CS の意義を知らせないといけない。「地域に開かれた学校」は、もともと、どの学校もやっているので、教頭がその CS をひっぱり、その担当職員と協力しながらやっていくことが大事だと感じた。

3　学校運営協議会を立ち上げたが、「目標・目的」を会員の方々に知らせることが難しい。

4　「つながり」を意識して、線引きをしないと教頭の仕事がどんどん増える結果になる。「つながり」と「線引き」をしていくのかが大事ではないか。

5　福岡県ではCSのようなことを30年前からやっている。専属の指導主事が配属されており、協議会が年3回実施されている。それぞれの学校でPTA会長をはじめ、いろいろな方々に来ていただいて協議している。何かやりたいことがあるときは、この団体に依頼することで、いろいろと動いてくれる。ボランティア団体にお願いすることもある。また、地域の方にもお願いをするうえで、普段から話をして関係

づくりをしておけば、依頼したことを引き受けてくれ易くなる。カリキュラムの面では、幼稚園から12年間のつながりを見通し、意識して作っているので、目標作りが簡単である。

Ⅲ 指導助言

＜宮崎県教育庁義務教育課

課長補佐 石川 優子＞

○ CSは大変な面があるかもしれない。そもそも2005年から始まっており、2017年に努力義務化された。今現在の導入率は、約50%である。なぜ CSが必要なのか。それは、教育が学校だけでは回らなくなっているからである。また、各機関との連携は教頭が行っているのが、実情である。

○ 家庭学習など学力向上についても地域の方を交えて話し合いをしている点がすばらしい。

○ 2段階で学校運営協議会を行っているので、みんなに浸透し、わかりやすい。また、9年間を見通したカリキュラムをきちんと実践している点が素晴らしい。

○ 幼稚園と中学生の交流があるのは、「キャリア教育」にもつながっている。それは、「めざす児童・生徒の育成」につながり、あんなお兄ちゃん・お姉ちゃんになりたいという思いをもち、郷土愛にもつながっていく。

○ 地域とのつながりについて「橋渡し役」は教頭だが、他の先生方でもいいのではないか。いろいろな先生方が関わったほうが、今後その先生方が管理職になった場合に生かされることもある。だから、「人材育成」の面からも他の先生方に依頼してみることも一つの方法である。教頭先生方が「これでいいのか。橋渡し役でいいのか。」しっかり見極めていくべきである。

○ 地域や保護者、先生方とのつながり方はいろいろある。それを教頭として、どうつなげていくのか、どうつなげていくべきか考えていくことが大事である。

【提言3】 宮崎県新富町立新田中学校

教頭 長友 智子

Ⅰ 質疑応答

Q1 職員研修は、全体研修と個人研修の両方をやっているのか。

A1 上新田学園は、個人研修のみである。地区の教頭会では全体で研修も大事だという意見も出ている。

また、個人研修でICTを活用した授業をA4プリント1枚にまとめ、それを集めたて、ICT活用集が出来上がるようにするような取組も行った。

Q2 すべて教頭先生が計画・実践した研修なのか。また、教員の ICT 活用のロードマップ（PDCA サイクルのように、研修会→授業→振り返り→授業というような流れを記したもの）はあるのか。

A2 ロードマップは、ない。教頭会で、ICT に関するいろいろな疑問などを投げかけて、「情報」を得たのが、教頭である。実際は、校内研究の中でこの研修を行った。ICT 担当は、得意な教員が担っていない場合もあるので、その場合は教頭がアドバイスをしたり、一緒に考えたりしたところがある。

Q3 「ICTを活用した生徒の学力向上」について、3ケ年取り組んでいると思うが、結果はどうだったか。

A3 何をもって、「学力向上」といえるのかが課題である。確実に「これだ！」といえるものはない。

Q4 ICT活用能力プラスICT活動指導力が授業改善の部分で大事だと思うが、ICT活動指導力が見えた授業はどんなものがあったか。

A4 ベテランの先生がやはり抵抗があったが、ICTを使った授業にチャレンジしたいと他の先生方に聞き、どんどん使用していき、授業でかなり使えるようになったということがあった。

Ⅱ 研究協議

1 上新田中の研修は個人研修とした。しかし、生徒指導研修など、少しずつ全体研修に戻している研もある。

2 年度末に、職員に対しどれくらい自分のICT活用能力が上がったかを研修を行っている。

3 ICTの活用能力は、子供と教員が使えるのは当たり前になってきており、現在は、子供たちが自分たちで学習に ICT をどう効果的に使えるようになるかという視点で研修している。

4 指導主事が全学校を回って、パッケージ研修を実

施している。教頭は多忙ということで、校内に「情報化推進チーム」というのを作り、その先生方を中心に ICT の研修を行っている。学校によって人数は、違う。現在は、熊本市研修センターが作成した資料を使って先生方が指導するなど、「情報セキュリティー」に力を入れて、進めている。

5　教頭がどこまでICT活用に携わるのかという話をした。「教頭としてやることは何か」についてグループで話し合った。そこで、セキュリティー、コンプライアンス研修、研修の助言等をマネジメントすることが大事なのではないかという話になった。

Ⅲ 指導助言

＜宮崎県日南市立榎原小学校

校長 甲斐 寿尚＞

○　個別最適な学びにはICT活用能力は不可欠である。

○　教頭会が同じベクトルで進み、「情報交換」や「情報共有」したものを各学校で反映させていることが素晴らしい。

○　各学校の教頭先生方の意見を取り入れて、ICTを使った授業改革を行っていることもすばらしい。

○　夏季研修など研修センター等の情報をいち早く取りいれている。物事を推進していくには、「キーマン」が必要である。それを新富町は、「教頭先生方」が担っている。

○　ICT を使った「働き方改革」に努めてほしい。教育の DX を掲げているので、先生方の ICT 能力が高めれば高めるほど、働き方改革が進むはずである。慣れるまでは、時間がかかる。長時間労働が問題である。ただ、ICT 改革が進めば、教頭先生方の働き方改革も進むと思われる。

Ⅳ 全体総括

＜宮崎県教育庁義務教育課

課長補佐　石川 優子＞

○　教頭は、先生方の「頭」であり、教頭職は、ファシリテーターとマネジメントがキーワードとなる。

○　人間関係づくり、教員のベクトルを同じ方向に向かせることは、なかなか難しい。どう向けていくのか。教頭先生の大事な業務である。

○　先生方が忙しいからと教頭先生自身がやっているということはないだろうか。「人材育成」「つなぐ役割」「切る」をしていくのが、教頭の仕事である。

○　「教頭会とは何か」、「学校の役割は何か」、「子供たちをどう育てるのか。」を話し合う教頭会にしてほしい。また、学校に一人しかいない教頭先生なので、いろいろなことを話し合える、学び合う場にしてほしい。

○　宮崎県では、「ひなたの学び」を推進している。「ひとりひとりが問いをもつ」「仲間となって学び合う。」という学びが先生方の研修の指針にもなっている。

○　教頭先生を中心に力を合わせて子供たちのために頑張ってほしい。

第５Ｂ分科会「教職員の専門性に関する課題」

提言１

研究主題	教職員の資質・指導力向上を図るための教頭としてのかかわり方について
副主題	教職員の育成や参画意識を高めるための取組を通して
協議の柱	教職員の学校運営参画意識を高めていくための副校長・教頭のかかわり
提言者	竹富町立大原小学校　　磯部　幸代（沖縄県）

提言２

研究主題	小中連携を通した教職員の資質向上のための教頭のかかわり
副主題	自ら学び　お互いを認め　高め合う　児童生徒の育成を通して
協議の柱	小中連携の活性化と，小中連携を通した教職員の資質向上のための教頭のかかわりの在り方
提言者	枕崎市立桜山中学校　　濱田　浩司（鹿児島県）

提言３

研究主題	教職員の危機管理意識の向上と学校安全に向けての対応力の育成
副主題	組織として活動するための教頭としての関わりについて
協議の柱	校内の協力体制づくりと地域社会との連携を推進するためにできること
提言者	宮崎市立赤江東中学校　　岩切　里栄子（宮崎県）

指導助言者	教職員課　副主幹　　花房　英晴
指導助言者	宮崎市立住吉南小学校　校長　　大迫　拓也

【提言1】 沖縄県竹富町立大原小学校

教頭 磯部 幸代

Ⅰ 質疑応答

Q1 ミニ研修会や OJT の推進に取り組まれているが、どの時間帯に実施しているのか。また、情報担当の Teams、教頭の google の活用方法について詳しく教えていただきたい。

A1 校内研修後に 15 分程度設定したり、学年会の時間を確保したりするなどの工夫をすることによって、時間を確保している。Teams と google については、主に Teams は、職員間での情報のやり取りに活用し、google は、授業で活用している。

Q2 評価システム面談について、もう少し詳しく教えていただきたい。

A2 一人一人のキャリアステージを意識した、一人一人に応じた内容の面談を行うように心がけている。

Q3 離島が多く研究会を設定することが難しいと思うが、教頭会としての研究をどのように進めてきたのか。

A3 年に4回しか教頭会はなく、1回目に研究テーマを決め、その後各学校での研究、まとめ（プレゼン作成）等になる。それ以外に、発表に向けて2～3回程度は、集まって研究をすることができた。

Q4 研究組織の編成における自分で実践したい研究部会を選ぶことについて、もう少し詳しく教えていただきたい。

A4 赴任する前のことであるため、詳細は分からないが、今年度は実施していない。しかし、自立した学習者を育成するという考え方は継続し、今年度は文科省指定 LDX 指定校として取り組んでいるところである。

Ⅱ 研究協議

1 学校独自の若年教員研修を実施している。企画・運営を自分達で行い、管理職は報告のみを受けている。3年目の先生が、係となって運営している。

2 職員の意欲を高めるために、ミーティングを行う際に、育成指標に書かれている内容を具体的に伝えるようにしている。

3 若手に主任等の役割を任せたり、学年構成においてベテランと若手をバランスよく配置したりするなどの工夫を行っている。

Ⅲ 指導助言

＜宮崎市立住吉南小学校 校長 大迫 拓也＞

1 全体を通して

○ 県は、経験年数を基にステージ分けを行っているが、学校現場では、経験年数で校務分掌を任せている訳ではなく、学校運営上の観点から任せているため、そこにギャップがあり、その点を指摘した上での提言であることから、とてもよい提言であった。

2 取組について

○ ミニ研修会については、先生方のニーズを把握する、年間計画を立てる、期日や内容等を事前に示すことを踏まえ、全職員に伝えた上で、学年会や学級事務と重ねて実施するとよい。希望する人が参加できるようにする。

○ 大規模校の研修会への参加については、中学校区ごとに年度当初、職員研修の年間計画を共有し、いつのどこの学校の研修に参加するかを決定していくとよい。

3 教頭として

○ 文書の起案、決裁時が、教頭先生の指導場面となる。決裁後の文書を校長先生から一旦戻していただき、教頭先生が担当者に返却するようにすると、校長先生が、何に引っかかり、どう修正しているのかを教頭として把握できる。次から起案文書を見るときの視点等を増やしていくことができる。

○ 学校で起こったこと、このタイミングでこんなことを伝えたいと思ったテーマを通信にまとめて職員に配付していた。職朝や職員会議では、校長先生のまとめの時間を確保しなければならなかったりするため、教頭が話す時間の確保が難しい。メリットとしては、全職員に同じ内容を伝えられる。目を通すタイミングを職員が選択できる。文字で残せば、何回でも見られるという点がある。

○ コロナをきっかけに「やることが目的化」していた行事や活動を、そもそも「何のために」「どんな力を育てることにつながるのか」といった観点から吟味することができた。行政、地域、保護者等から、様々な意見が出ると思いますが、最後は、子どもにとってどうなのかで判断し、守るべきは何なのか、改めるべきものなのか、どちらを選択しても「勇気」と「知恵」が必要である。

【提言2】鹿児島県枕崎市桜山中学校

教頭　濱田 浩司

Ⅰ 質疑応答

Q1　中学校で行われている職場体験の学習発表、絵本の読み聞かせ等はどの時間に設定しているのか。

A1　職場体験の学習発表は「総合的な学習の時間」、小学生への絵本の読み聞かせは「生徒会活動の時間」に設定している。小学校との授業時間が異なるため時間設定はなかなか難しいという現状はある。

Q2　乗り入れ授業をする際、小中学校のどちらの教員が主担当となるのか。また、授業の主担当となる教員は負担が大きいと思うが、ことについてはどう対応しているか。

A2　中学校の教員が小学校の授業の主担当となって授業を行っている。現在は、体育の教員が持久走大会前に体育の授業を2回程度行っている。負担は大きいと思うが、教頭が早めに小学校との連絡調整を行うことで負担軽減につなげている。

Q3　小中連携を進めていく上で、教頭として一番の役割は何だと思っているか。また、教頭として重視していることは何か。

A3　小学校や中学校の担当職員との調整が一番の役割である。授業時間が違うため、早め早めに調整していく必要がある。また、小学校の教頭先生とすぐに連絡がとれるような信頼関係を築くことを重視している。

Ⅱ 研究協議

1　小中連携の取組は、どの学校でも行っているが、お互いの学校規模や距離が近く連携が可能かどうかなどの環境によって差が生じる。

2　国の指定を受けて小中連携に取り組むこともある。その年度は、市町村教育委員会主催の会議などもあり時間確保も容易にできるが、次年度以降も継続して取り組むためには、教育課程にどのように入れていくかが重要となる。

3　宮崎県日向市では、小中一貫教育を始めて18年目となる。小中合同の入学式、遠足、乗り入れ授業など行っているところである。これらの取組は、子どもにとっても教員にとってもプラスになっていないと継続できない。6年生の段階で中学校での部活動を体験することもできるが、教職員の負担を増やさないよう、できる範囲の中で行うことが重要であり、小中連携をすることが目的とならないように考えることが必要である。

4　小中連携をして、教職員の資質が本当に高まっているのかが曖昧ではないか。中学校の職員が小学校の授業を参観して、小学校の学習内容を知ったり、意識を持ったりすることができるが、教職員として必要とされる資質を高めるところまでいっているのか疑問が残る。資質向上の視点も必要ではないか。

Ⅲ 指導助言

＜宮崎県教育庁教職員課 副主幹 花房 英晴＞

全国的に教員採用試験の倍率が年々下がっており、大学を卒業してすぐに教壇に立つ人が増えている中で、教員の資質向上を図るために、教職員を学校で育てていくことは重要となる。国が示した「令和の日本型学校教育を担う新たな教師の学びの姿」とは、主体的な姿勢、継続的な学び、個別最適な学び、協働的な学びとなっている。今回発表された桜山中学校において、小学校と合同で様々な取組がなされていたが、教頭としては、児童生徒だけではなく、教師にとって学びが見られたかどうかが重要な視点となる。管理職として教師にとっての学びの場や雰囲気を作っていくことが非常に大事である。小中連携を行うことで児童生徒の学びを充実させることの重要性もあるが、教職員の資質向上にも役立つのではないか。

桜山中学校では、小中学校で共通の学習スタイルを作成するなど、中1ギャップを減らす取組が行われていた。中学校の教員が小学校のきめ細やかな授業を参観することは、自分の授業を振り返ることができる機会となるため、小中学校合同の研修は、協働的な学びを実践できる貴重な場である。また、小学校の

教員にとって、中学校の教員による専門的な授業を見ることは、新しい専門性を身に付けていくという意味で、個別最適な学びにもつながっている。

「木こりのジレンマ」という話がある。森の中で刃のこぼれた斧を使って一生懸命木を切っていた木こりに対して、村の人が刃をもっと研ぐと切れるとアドバイスをしたが、木こりは木を切るのが忙しくて刃を研ぐ時間がないと言った話である。これは、現在の学校の姿ではないか。研修の重要性はわかっていても、余裕がないという現実がある、とはいえ先生たちに余裕がなければ主体的な学びにはならない。新たな教師の学びの姿を実践することは、働き方改革にもつながるのではないか。教員の資質向上のためには、先生方がゆとりを持って取り組むことが大事であるが、活動時間の確保はどの学校でも課題である。人を増やすことでしか解決できないと言われることも多いが、組織風土、行動パターン、学校はこうあるべきだという意識改革を進めていくことも必要となってくる。働き方改革の視点も含めて小中連携に取り組むことで、働き方改革につながることもある。

【提言3】 宮崎市立赤江東中学校

教頭　岩切 里栄子

Ⅰ 質疑応答

Q1　熊本も大きな地震があったが、避難所が足りずに急遽本校が避難所になった。避難する地域の方を受け入れるための物資もなかったが、職員で避難所を運営するしかなかった。避難所になると授業もできず、対応に追われる日々であった。先日の地震で宮崎県では学校が避難所となったのか。また、避難所として運営できる体制は整っていたのか。

A1　木花中学校には防災倉庫があり、熊本県の地震を受けて整えたものである。宮崎市が設置した倉庫だけでなく、赤十字や地域が設置した倉庫もある。避難所は、宮崎市では指定されているところは開設した。運動部活動の大会に参加するため他県の生徒がおり、本校体育館に避難した。

本郷小学校は避難所になっていなかったが、一組の親子が学校に来られた。避難所としての体制もないため、近くの公民館への移動をすすめたが、学校に居たいと言われそのまま残られた。そういう想定外の避難者への対応も教頭がせざるを得なかった。

Ⅱ 研究協議

1　リアルな訓練について、あえて子どもをトイレに隠して人数報告が正しくできるのか、取り組まれた学校があった。職員には知らせずに実施することでリアルな訓練となることもある。

2　全職員が学校にいる時に災害がおこるとは限らない。誰かがいない、校長がいない、主幹がいない時に災害が起こることは現実的にある。ある学校では、役割カードを十数枚用意しており、何をしないといけないかを書いてある。避難訓練では、当日居る先生に集まってもらってカードを配り、与えられた役割を果たす練習をしている。

3　啓発や安全点検だけでなく、それらの情報を共有することが大事。防災教育コーディネーターが研修に行っている学校も多いが、研修内容が全職員には伝わっていないのではないか。管理職だけでなく全職員が危ない場所など共有しておかないと実際に災害が起きた時に動けない。

4　リアルな避難訓練について、避難場所を予告しない、予告無しでの実施などの取組を行っている学校もある。防災士に避難訓練を見ていただき、客観的な意見をもらうことも有用である。

5　個人やグループの点検は定期的に行っているが、点検した内容を全員で共有をせず、管理職に提出して終わっている。その結果、危機管理の視点がない職員も増えているのではないか。共通理解の時間を確保して、確認し合っている学校もある。

6　環境的に不審者が外部から入りやすい学校が多い、学校の教員だけで対応することは難しい。声をあげて行政にお願いすることも必要となる。

7　計画された当たり前の避難訓練ではリアルな避難訓練は難しい。訓練では想定された事からの避難だが、実際は何が起こるか分からない。地震の後に不審者が来ることもある。形だけの訓練では意味がない。

8　教頭が通報するという学校が多いが、教頭でなくてもよいのではないか。誰でも不審者がいれば通報する。男の先生がいない時に不審者に誰が対応するのか、現実的なことを考えなければいけない。自分事として捉える職員を増やすことが大事である。

9　沖縄では、4月に地震があり津波警報が出た。避難する場所である安全な畑に学校の生徒や職員、地域の人、観光客も集まるという状況になった。避難訓練で一緒に訓練した消防団は、実際には来ることはできなかった。訓練と実際とは想定外のことがおきる。暑い中2時間くらい過ごした。地域の人を交えての訓練もしたが、実際には観光客もいた。

Ⅲ 指導助言

＜宮崎県教育庁教職員課 副主幹 花房 英晴＞

危機管理意識の向上については、令和4年学校安全の推進に基づいて各学校で取り組んでいく必要がある。海沿いに面している学校は、防災に関する意識が高い地域であり、生徒の避難だけでなく、地域の方と協力して中学生が避難所を運営することもある場所もある。教頭としては、学校と家庭とをつなぐ役割があるが、地域の組織が複数ある場合、地域にとってその組織がどういう立場の位置づけがあるか知ることから始まる。

リスクマネジメントについて、教師の意識が低いという点が挙げられている。先日の地震で、どういった動きができたのか確認する必要がある。避難訓練の時に、教頭が訓練で放送するが、本当にできるのか、校長の判断を仰がなくてよいのか、校長がいない時はどうするのか考えておく必要がある。危機管理マニュアルでは、役割が決まっているが、特定の人が動くのではなく、誰でも動けるような意識を作ることが大事である。生徒も一緒に安全点検をする、地域の方も協力していただいて点検する、点検簿をデジタル化してみんなが見られるようにするという事例もあるので参考にして欲しい。

Ⅳ 全体総括

＜宮崎市立住吉南小学校 校長 大迫 拓也＞

教職員の資質指導力向上について、7～8年前と学校現場が抱えている課題が大きく変わっている。欠員の講師を配置しないといけないのに、講師が見つからず教頭や教務主任が授業する学校がある。再任用短時間勤務が選択できるため、午前中で授業が終わり研修や職員会に参加できないでない職員がいる。新規採用や欠員補充の講師を併せると教員経験が浅い職員が一定の割合になり、その対策に裂く時間が必要となる。 そのような中、資質向上に取り組むには、職員研修時に不在になる教員への対応、レクチャーが必要な教員への対応が急務となる。本校では、職員研修の様子を動画で撮り、短時間勤務の方や会計年度任用講師が空き時間などに視聴できるようにしている。

小中連携について、「文化の違い」という点でいうと、中学校から見ると小学校は優しすぎる、小学校から見ると中学校は厳しく、もっと褒めた方がよいと見えたりする。小学校では単元テストで絶対評価、中学校では定期テストや実力テストが主流で、相対的な評価も実施されている。義務教育9年間で育てていくために、小学校文化と中学校文化の良さを生かし小中連携の文化を創っていく必要がある。

教職員の危機管理意識を高めることは、今後も重要となる。大川小学校の津波訴訟では、市と県の違法が認められ敗訴となった。本校では、避難訓練に向けて、ハザードマップと標高を確認したが、その条件がマックスではなく、もっと厳しい条件になった時にどこに避難するか、再度検討した。学校に戻ったら、自校の危機管理マニュアルを見ていただき、地震、ミサイル、ゲリラ豪雨、異物混入などについてどう対処するようになっているのか確認してほしい。

本分科会での3つの研究主題における提言はますます重要度を増す内容であり、今後も更なる研究が求められる。

全体会

○　日時　　令和６年８月２３日（金）９：００～１２：００
○　場所　　シーガイアコンベンションセンター　４Ｆ　天瑞

１　開会行事　　９：００～９：３０

１	開会のことば・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	実行副委員長　大垣　雅史
２	国歌斉唱伴奏（ＣＤ）	
３	あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	大会実行委員長　米澤雄志郎
４	祝　　辞・・・・・・・・・・・・・・・・・	宮崎県教育委員会教育長　黒木　淳一郎
		宮崎市長　清山　知憲
		全国公立学校教頭会会長　松野　博文
５	来賓紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	実行副委員長　宮永　恵吾
６	感謝状贈呈・・・・・・・・・・・・・・	受賞者：前年度九公教会長　知念　英也
	授与者：大会実行委員長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	米澤　雄志郎
７	閉会のことば・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	実行副委員長　大垣　雅史

２　記念講演　　９：５０～１１：２０

○　演　題：「生きながら生まれ変わる」
○　講　師：　米良　美一　氏

３　閉会行事　　１１：３０～１２：００

１	開会のことば・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	実行副委員長　黒木　博
２	次期開催県会長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・	大分県会長　戸次　弘子
３	大会宣言決議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	実行副委員長　宮永　恵吾
４	万歳三唱・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	福岡県（中）会長　小川　幸代
５	閉会のことば・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	実行副委員長　黒木　博

記念講演記録

○　演題　「生きながら生まれ変わる」

○　講師　米良　美一氏

○　幼少期

宮崎県西都市で、一人息子として生を受けたが、生まれながらの難病「先天性骨形成不全症」があった。ちょっとしたことですぐ骨折してしまい、入退院を繰り返す日々であった。両親は、工事現場で働きながら自分の入院費や学費を捻出してくれていた。この頃から歌を歌うことが好きで、地元の人にその歌声を披露していた。

自分は普通に地元の小学校に入学できると思っていたが地元の小学校ではこの難病では学校生活が送れないと判断され、西都市から遠く離れた特別支援学校で学校生活を送ることになった。

○　特別支援学校で

小学校１年生から親元を離れての寮生活、しかも入退院を繰り返すような中では、なかなか学習を継続して行うことができず、知識が身に付かなかったと振り返る。入院中にはよく松田聖子の曲を聴き、歌の世界への淡い憧れをもつようになった。

中学校・高校ともに特別支援学校の中等部・高等部へと進んだ。小中学校時代に約３０回の骨折を繰り返した。高校時代に本格的に声楽家を志したが、特別支援学校から音大へ進学することは難しかった。しかし、音楽の先生の支援と指導を受け、見事音大へ進学することができた。

○　デビューのきっかけ

当時２６歳。声楽家としてデビューし、ヨーロッパに留学中のこと。起用の発端は、宮崎監督の閃きだった。ラジオで米良の歌声を偶然耳にし、最新映画の主題歌にとオファーがあった。「もののけ姫」の主題歌を歌い、映画のヒットで一躍時の人となった。

○　輝いていたのは２年間

この頃はきらびやかな存在でいたい、傷つきたくないという思いが強く、宮崎で過ごした過去は決して楽しいものではなく、封印しておきたい記憶だった。芸能人にとって暗い過去は必要ないと考えており、取材で聞かれてもひた隠しにしてきた。ただ、隠し事があると苦しくなり、スポットライトを浴びれば浴びるほど、自分の後ろには影ができたように感じていた。腕が曲がった姿を隠すために、ものすごく華やかで、ボディーラインが目立たない衣装を着ていたり、もののけ姫のような高い声ばかりを出すのは大変なのに、無理をして歌ったりしていた。やがて人と会うのが苦しくなり、体もがちがち

に緊張して声も出せなくなってしまった。しかし、芸能人にとって大事なのは忘れられないということである。生きていくためには仕事を選んでいる場合ではないと、バラエティーにも活動の幅を広げ、食いつないだ。

○　スランプ脱出

スランプ脱出のきっかけは美輪明宏さんの「ヨイトマケの唄」との出会い。家族のために工事現場で働く母を偲んで書かれた歌で、まさに自分の半生そのものだと感じた。この曲を裏声ではなく、あえて地声で歌う。生まれたままの声を披露し、そこで一つの殻を脱ぎ捨てることができた。これまで難病で苦しんだ過去から目をそらし、「故郷を見返したいというネガティブな気持ち」で自分を奮い立たせてきた。しかし、ありのままでいようとしたら、すごく穏やかな気持ちになり、ようやく自分を客観的に見ることができるようになって、それまで隠してきた過去についても語れるようになった。「ヨイトマケの唄」で人生の第２幕が開いたようだった。

○　さらなる試練

２０１４年末、くも膜下出血で倒れ、長い闘病生活を余儀なくされた。ステージ４と診断され、本当に命が危なかった。２度の手術・リハビリを経て、９か月後には車いすに乗ってステージに上がった。その後もう一度手術を受け、合計３度の手術を乗り越えた。

また、数年前には前十字靭帯断裂という大けがを負った。難病ゆえに骨にボルトが打てず、装具で固定してしのいだ。しばらく杖が手放せなかったが、最近になってようやく自力歩行が可能になった。

○　理学療法士との出会い

いつも体のケアをしていただいている理学療法士の先生から「米良さん、顔が怖いですよ。」と言われた。それ以来、常に自分の顔を手鏡で見て、表情をチェックするようになった。普段から穏やかな気持ちでいると口角も上がり、自然に笑みが出てくるもの。「笑顔」でいることは人として最低限のマナーである。これまで心から笑うことができなかった自分の半生を正面から振り返り、間違った心の使い方をしているということを教えていただいた。この先生との出会いは、自分にとって非常に大きかった。ぜひ、先生方も率先して笑顔で先生方や子どもと接してほしい。

○　先生方へ伝えたいこと

「言霊」という言葉がある。言葉に宿る不思議な力のことで、発した言葉通りの結果を表す力があると言われている。今の日本人の言葉の乱れが気になっている。いい言葉を使うとその言葉のように世の中が変わっていけるのではないか。将来希望をもてる社会にしていけるよう、日本の将来を担う子どもたちに古来より伝わる日本語の美しさと大切さを伝えてほしい。私は現在「みやざき読書アンバサダー」として活動している。先生方にぜひフランスの哲学家アランの著書「幸福論」を読んでみてほしい。アランは読者に考えを強いることをしていない。９３の短編に分かれていてどこからでも読め、一つ一つにストーリーがあり読みやすい。誰もが使っているありきたりな言葉ながら心に響くものがある。

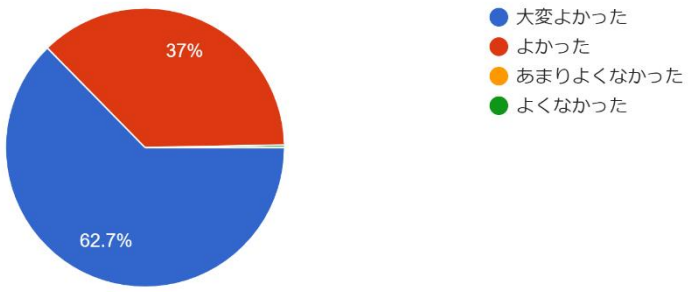
○　最後に

講演の冒頭では、「もののけ姫」の主題歌を披露していただいた。以前は聴いている人のために歌っていたが、今は自分の心を満たすことが大事で、自分の心からあふれた歌が、お客さんにも届くのではないかと考えるようになったそうだ。「もののけ姫」のストーリーに自分の生い立ちを重ね、過去の自分を受け入れながら、今を生きろということだと解釈するようになったという。自分が歌い、前を向いて生きていく姿を見せることで誰かを勇気づけられればとの思いで、苦しいことがあってもステージに立ち続けておられるという。実はこの講演会の数日前にお父様が他界されたという。その悲しみを微塵も感じさせず、講演会を全うされようとしている姿があった。会場からは、宮崎弁を交えた軽妙なトークからの笑いあり、美しい歌声に感動する涙ありで、大変充実したものとなった。

大会参加者アンケートまとめ

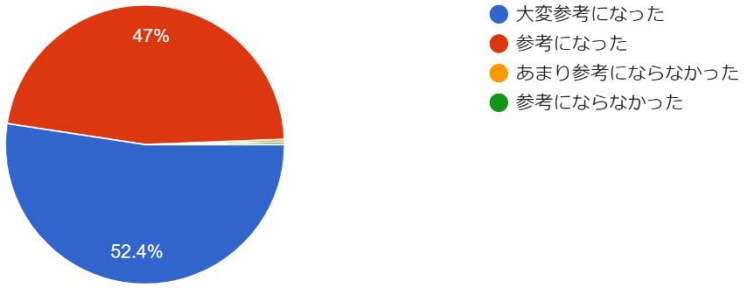
１　分科会について　（１）　内容はどうでしたか。

332 件の回答



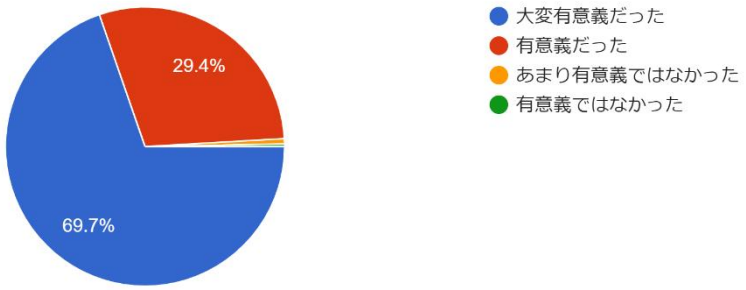
（２）　提言内容は課題解決に向けて参考になりましたか。

332 件の回答



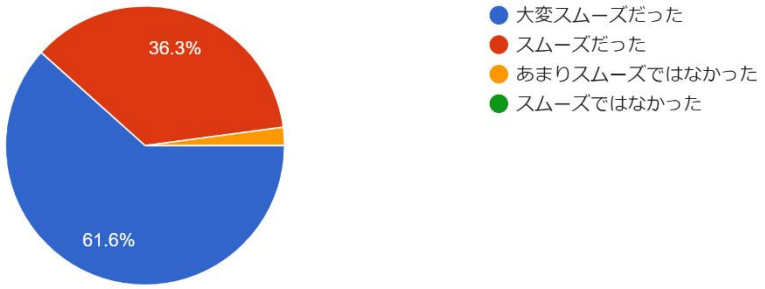
（３）　グループ協議は有意義でしたか。

330 件の回答



（4）　分科会の運営はスムーズに進められていましたか。

331 件の回答



（５）　分科会について、ご意見・ご感想があればお聞かせください。

特になし

分科会２、５の研究課題と教頭の役割の結び付け方、リンクについて、なかなか難しいなと感じました。

グループ協議では、皆さん進んで発言して下さり、大変ありがたかったです。

他県の教頭先生方とお話ができたことが何よりの学びとなりました。取組はもちろんのこと、教頭としての視点や考え方など、今を見直す貴重な時間でした。

会場が寒すぎた

グループ協議の時間が長過ぎて無駄が多かったのではないかと思います。あの長さで実施するのなら協議題は２つでよかったと感じた。

グループの机が小さくてとても窮屈だった。

九州各地の貴重な実践を交流することができ、大変参考になりました。ありがとうございました。

各県の取り組みが聞けてとても参考になった。

九州各県の情報が知れて勉強になりました。

他県の先生とも交流でき、たくさんヒントを、いただきました。準備、運営ありがとうございました。

特にありません。

他県の事例が聞け、自分の学校でもしてみようと思いました。

メモをする用紙が欲しかった。

各学校状況は違いますが、他校の取り組みをたくさん聞く事ができ、大変参考になりました。

会場が少し暑かったので、もう少し空調をきかせてほしかったです。

他県の方と交流できて、有意義だった。
大変勉強になりました。
各県の先生方と意見交換できたことは、とても有意義でした。地域、校種、学校規模の違いを超えて、教頭としてやるべきことが見えてきたように思います。
いろいろな県の先生方との意見交流が大変よかったです。
とても参考になった。
テーブルごとの進行と記録は3回とも変えるようにアナウンスして、みんなでやるようにしてもよかったのかなーと思った。（3回とも宮崎の先生がしてくださったので、記録の先生は、協議の中で発言されることがなく、気の毒だった。）
弁当は残念でした…
機器の不具合で心配されましたが、発表や協議等に支障はなく良かったです。
もう少し時間に厳しくなってほしい。
人数が多いので仕方ないと思うが、もう少し先に余裕があればよかったと思う。
提言は、午前１つ、午後１つの２つくらいでいいのかなと感じました。
2つでもよかったのでは。
会場が寒かった
様々な事例を知る事ができ、勉強になりました。
他県の取組を知ることで、見聞を広げることができた。取り組みは違うが教頭としてのスタンスは変わらないと思った。
他県の教頭との情報交換が、たいへん充実したものになった。自身の管理者としての取組を見つめ直すよい機会となった。
九州各地の先生方と情報交換できたことが大変よかったです。
九州各地の教頭先生がたと学校運営に関わる課題についてざっくばらんに話ができて大変有意義な時間でした、ありがとうございました
他県の取組が聞けて勉強になった。
グループ協議において、他県の先生方と話せてことが有意義だった。地域が変われば組織や運営の方法も違うこともあるが、参考になる取組もあり、今後に生かしていきたいと感じた。
時間配分、特に指導助言が充実したために超過したことが残念であった。
それぞれに同様の課題を抱えており、解決する方策には至らなかったが、課題を共有することができたことはよかった。
勤務校の課題と同じ内容について意見交換ができてよかったです。

座席の間隔をもう少し取っていただけたらよかったです
いろいろな先生方の話しを聞くことができ、非常に勉強になりました。
提言される先生方、その地区の先生方に頭が下がります。多忙のなか素晴らしい実践をされ、またその内容がどれも素晴らしく、今の自分の動きを反省させられました。この反省を反省だけに留めず、今回の取組を参考に今後努力していこうと強く感じました。
他県の先生方と情報共有ができてよかった。
いろいろな県の先生方と話ができて、とてもよかったです。
県によって取り組み方、教頭の役割などが違うこと。また、進んだ取り組みを交流できた事がとても有意義だった。
先生方のご苦労と、教頭の役割「つなぐ」について学ばせていただきました。来週から学校が始まります。自分が率先して動いて頑張ります。
提言内容だけでなくいろいろな話をさせていただき、大変、勉強、参考になりました。
有意義な時間でした。ありがとうございました。
いろいろな地域の教頭先生方の取り組みを聞くことができて、大変参考になりました。
他県の学校の様子や異校種の先生方のお話から参考になる視点をたくさんいただきました。特に第１B 会場の 3 班は宮崎の司会記録の先生の温かくも熱いファシリテーションで有意義な情報共有ができ、日頃から困っている教頭業務用についてもたくさんのアドバイスをいただきました。宮崎の事務局の先生方本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。
内容はよかったが、時間が長かった。
司会をさせていただきましたが、事前に資料があればもっと協議を深める事ができたと思いました。私自身の力量の無さではありますが。
提言が２つなら、もう少し時間確保できたかなと思いました。もう少し時間が欲しかったです。
九州の教頭先生方から事例やいろいろな情報交換ができ、大変有意義な分科会になりました。
他県の先生方との意見交換ができ、大変有意義な研修でした。
各県との情報交換が大変有意義でした。

１日目にしては時間に余裕がないように感じました。提言は２本にしてはいかがでしょうか？朝、４時半に家を出て参加されている方もいらっしゃいました。せめて３時半くらいには閉会しても…。
実行委員の先生方にサポートしていただき、なんとか提言の発表ができました。ありがとうございました！
よかった。
企画、運営をありがとうございました。お疲れ様でした。
いろんなご意見を聞けて、大変勉強になりました。ありがとうございました。
他県と情報を共有でき、とても有意義なじかんになりました。
宮崎の教頭先生方、本当にありがとうございました。
司会記録は連続して同じ人ではなく交代制にすとよい
分科会のテーマと発表内容にややずれがあったように思います。（第二分科会）
交流できて良かったです。
提言の内容もとてもわかりやすく良かった。グループに分かれて協議をするスタイルは、みなさん話しやすく日頃の困り感や悩みを共有することができた。
提言については、3 つは多いかなと思いました。協議が大変でした。司会や記録が何をするのか、何時まで進行するのかを事前に周知していただけるとよりよかったのかなと思います。
グループ協議の時間が確保されていた。
討議の時間が適切であった。各協議班の司会・記録は事前にわかって居た方がありがたい。
素晴らしい提言、実践発表でした。ありがとうございました。各県の先生方とお話できました。貴重な経験でした。
３つの提言それぞれの協議があり、深められた。
他県の先生と交流でき大変勉強になりました。
事前に司会、記録をする方には連絡が欲しかった。
ボリュームが多すぎたように思います。
提言を 2 つにして記念講演と合わせると 1 日で開催できるのではないかと思う。
司会者の指名でグループ発表を、順番にしてもらった方がよいと思いました。内容がどうあれ、全体に発表してもらう機会があった方がよいと思いました。
他県の状況や課題解決のヒントをたくさんいただくことができた。

第４分科会は、教育環境の整備というテーマだったので、学校規模に応じた環境面等の提案がされると思っていたが、ICT のことが中心だった。テーマにそった提案、または２次案内に提案の主題を記載してほしい。
マニュアルはあったものの分科会の司会、記録については、事前に伝えていただきたい。
各県の先生方と意見交換をする時間が十分に取られていてよかった
大変有意義な時間でした。当日までの準備、運営等　本当にありがとうございました☺
会場が寒かった。
司会、記録などの役割は、事前に決めておいてもよかったのではないか。
机が小さく狭かった。
各分科会の運営がスムーズだった
各提言について、指導助言を頂いているので、最後の全体総括は不要だと感じた。
九州各県の教頭先生たちと意見交流ができ、大変満足しています。参集型の研修大賛成です。
フリートーク型なのが良かった。各県の様々な情報を得る良い機会になった。名札のペーパークラフト、とても参考になりました。様々なアイデアがあり、いろいろと勉強になりました。
活発に 他県の先生方も意見を言ってくれたのでいろんな情報を得ることができました。
県内外の教頭会先生方のご意見をたくさんお聞きでき、勉強になった。
他県の先生方とも意見交換できて大変有意義であった。
皆さんと交流が出来て良かった。残念だったのは指導助言者のまとめが、提言に対するまとめてはなく文科省のなぞりだったこと。統括も同様で提言とかけ離れ過ぎでせっかくの提言とグループ討議を潰してしまったのは残念でした。（第２分科会）
皆さんが積極的に発言してくださったので、有意義な情報交換をすることができた。
他県の取組を聞くことができ、大変参考になりました．ありがとうございました。宮崎県の防災の取組が実践的で驚きました。
色々な県の先生方と協議ができて県による違いや自県の良さなどを実感することが出来ました。参考になる取り組みやご意見を頂き、明日からの学校運営の参考にしたいと思います。

九州の様々な県の方々と交流できるグルーピングがしてあり、ありがたかったです。

参考になる取組も伺うことができました。

提言発表、グループ協議は午前に１回、午後に１回の２回でよい。３回は多いと思います。

他の県の方々との意見交換は、また違った視点で課題を解決していたり取り組んでいたりするんで興味深かった。

学校のこともですが、教頭自身の働き方改革に関してまだまだ話したいことや改善しないといけないことだらけでした。（特に鹿児島…他の県の話が聞けてよかったです）

建設的な意見や素晴らしい実践等が聞けて、大変勉強になった。

グループ協議があり、他県の先生方と話しができたので、よかった。

ICT 機器の活用や働き方改革の取組など教育環境整備について本校で改善できることがたくさんあり、とても参考になりました。他県の取組も聞けて大変有意義でした。

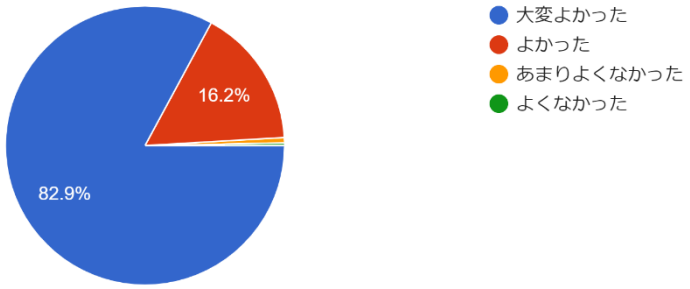
どの提言も、充実した内容であり、大変勉強になった。研究大会の趣旨を考えると、教頭としての具体的な実践をもっと知りたい面もあった。

各県の教頭先生と情報交換でき有意義な時間を過ごすことができた。

提言は思い切って２本にして協議の時間をもっと長く取るとよいと思いました。時間が足りなかったです

２　全体会について　（１）　記念講演はどうでしたか。

327 件の回答



（２）　記念講演について、ご意見・ご感想があればお聞かせください。

会場が暑かった

米良さんの歌がたくさん聴けて良かったです。

笑いや歌を交えて、とても楽しい感動的な講演でした。ありがとうございました。

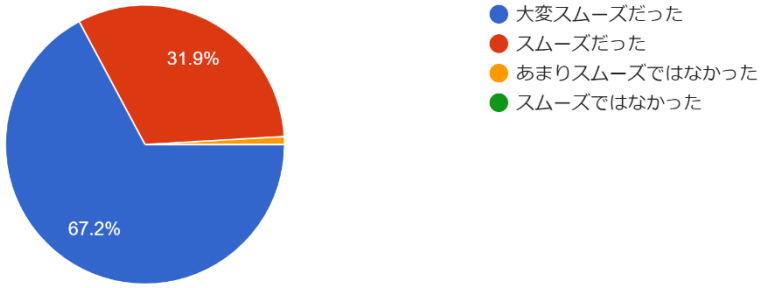
とても感動しました。
情にあふれた公演ありがとうございまさした。
心に響く素敵な講演だった。
素晴らしかった。歌声が心に響きました。
米良美一氏の歌とお話しが素晴らしかったです。
心を洗濯していただきました
笑顔の大切さを改めて感じました。歌もあり、メッセージが伝わりました。
お話しと歌に感動しました。
自分自身の考え方や生き方を見つめ直す機会になった。
楽しく過ごせた。
ご自身の経験を踏まえた心に響く講演でした。
心に響くお話でした。ありがとうございました。
会場がフラットだったので、後ろの方は見にくかったです。音響はよかったと思います。
歌の歌詞が突き刺さるほど、上手だった。大変良かった。
笑顔の大切さを心がけていきますし
時間を忘れてしまうほど、講演に引き込まれました。とても良い企画でした。
感動しました。
面白いトークと素晴らしい歌声で、楽しくきくことができた。
歌もありすてきでした。
講師の自己開示を含め、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。
米良さんの話がとても良かったです。
素晴らしいお話と歌で、感動しました。
とても楽しい講演でした
米良さんの話が大変面白く、勉強になりました。ありがとうございました。
楽しいお話しの中にも、生きていく上で大切な事は何かという事を学ばせていただきました。 素晴らしい歌もあり、とても贅沢な講演でした。ありがとうございました。
心に響くお話から自らの生き方を振り返ることができた。
自分を語ることのすばらしさを改めて実感させていただいた。
一つ一つの言葉に重みを感じました。元気をいただきました。
米良さんの✏と心に響く言葉で 元気をいただきました。リフレッシュの時間になりました。おてもよかったです。
人としての在り方、どう生きなければならないかを考えるよい機会となった。またそのような思いに至るような心に真っ直ぐ届く講演だった。生歌もたくさん味わえて、贅沢な講演だった。
言霊が印象的だった。言葉を教えていく職業として、子供達に伝えていくことの大切さを改めて感じた。

あっという間に時間が過ぎた
大変なことはこれからも数多くあると思うが、与えられた役割を口角をあげながら果たして行こうと思った。
感動しました。ありがとうございました。
素晴らしい講演でした。
とても心に響くお話でした。元気をいただきました。ありがとうございました。
心に染みる歌声でした
とてもよい講演でした。あまり、お話してくださらなかったけれど、想像を超える苦労や心の葛藤から、どのように現在に至ったのか、今の子どもたちの現状についての想い等をもっと聞きたかったです。 経験した方しか語れない話を聞いて、経験していない私たち教師は、この経験を活かし想像力を働かせて仕事に向かうべき職業であること、たくさんの方が気がついたと思います。　ありがとうございました。
米良さんの講演は初めてではありませんでしたが、いつ聞いても笑いあり、心に響く感動ありと毎回心が動かされます。
感動溢れる講演会でした。
笑いを交えながら、米良さんが人生で学んできたことを聞くことができ、有意義な時間を過ごすことができました。
手紙という曲は、4年前に他界した主人のことを、思い出し、胸が熱くなりました。言霊を感じました。ありがとうございました。
涙が出ました。ご縁をありがとうございました。
宮崎訛りの親しみを感じるお話の仕方、内科で９０分、楽しく聞かせていただきました。 最後のヨイトマケの唄は涙がでました。感動でした。ありがとうございました。
お話も歌もとても感動しました。ありがとうございました。
最後のヨイトマケの歌で泣いてしまいました。母も同じようにそんな仕事をしながら私たち姉弟を育ててくれました。帰りに実家によって顔見て帰ろうと思います。
講演内容はとても良いですが、会場の狭さをとても感じました。
歌、講演大変素晴らしかったです。
周りの人を大切にすること、そしてそのために自分がどう在るべきかについて、大変勉強になりました。
貴重な学びを得られました。
米良さんのお話をもっと聞きたかったです。 歌声も大変、心に響く素敵な時間でした。
ありがとうございました。
心震えました。ありがとうございました。
ご縁に感謝です。
歌あり、話あり、良かった。
心に響く講演でした。　元気もいただけました。

素晴らしい！！米良さんに出会えて良かったです。
大変素晴らしい講演でした。ありがとうございます。
素晴らしい講演でした。ありがとうございました。
米良さんのトークや歌が素晴らしかったです。とくに歌詞がすごく心に響きました。
米良さんの話、大変心に響きました！素晴らしい人選でした。ありがとうございます。
前の席で歌やお話が聞けて感動しました。　心に残るお話でした。
米良さんのお話と歌が大変心に響きました。
とても良かったです
米良さんのお人柄が素晴らしく感動した。
米良さんの講演は、多様性社会を生きる子供達を育成させるためにとても良い話でした。
講師の選定が良かった。
感動しました。素晴らしかったです。
これまでの自分の教員生活を猛省しています。２月期から頑張ります、
初めてでしたが、素晴らしかったです。ありがとうございました。
大変感動しました。笑顔で頑張れます！
素晴らしかったです。ありがとうございました。
ざっくばらんなお話でとても良かったです。
心が癒されました。
教育の観点からだけではなく、自分自身の生き方も振り返ることができた。明日からの教育活動を頑張ろうというエネルギーを得ることができた。
とっても感動致しました。　ありがとうございました。
よかった
人選がよかったです
米良様に元気を頂いた。非常に感動的であった。
前向きな気持ちになりました。
素晴らしかった。心にしみる講演だった。
米良さんの歌、歌詞、お話に大変感動した。
二列目で見ていましたが、感動してずっと涙が止まらなかったです。気付かれたかもしれませんが。また子ども連れて見に行きます！
たくさんの経験からにじみ出る言葉や歌声に感動しました。勇気をいただきました。
米良さんの講演は、いつ聞いても気付かされることが多いです。
貴重なお話大変よかった。
米良美一さんの楽しいお話と美しい歌声に癒されました。
米良さんご本人に実際に会ってお話を聞くのが初めてでしたが、話の中で色々な経験をされて本日ご講談されているのかと思うと心打たれました。笑顔、美しい日本語を心がけて人生を送りたいです。

米良さんの真摯な生き様が滲み出ているお話と歌を聞くことができ、心に響く内容でした。
素晴らしい歌とユーモア交えたお話で大変よかったです。
非常に興味深い話が多岐に渡って行われ楽しかったです。
米良さんの歌声に感動でした。米良さんのように言葉に魂を込めて子供達に愛をもって接していこうとあらためて思いました。大事な日本の未来を宝物な子供達に託さないといけない。それが我々の教育にかかっていると思います。
歌あり笑いあり、しかも生きることについても考えされられる講演だった。
米良さんの話と歌がとてもよく、心が清らかになった気がした。
素晴らしい講演で、学びが多く、心が潤った。
たくさんの試練を乗り越えた人柄だからこそ魅力的な話や歌となり私の心にひびきました。
特に笑顔は努力しないとできないという話は印象的でした。これから実践していこうと思います。

（３）　全体会の運営はスムーズに進められていましたか。
326 件の回答



３　大会全体を通してのご意見・ご感想があればお聞かせください。
ありがとうございました。
お疲れ様でした。ありがとうございました。
お世話になりました。
学び多き宮崎大会でした。ありがとうございました。
準備、運営お疲れ様でした
初めての参加でしたが、大変有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

御準備お疲れ様でした。ありがとうございました。
大変お世話になりました。
宮崎が大好きになりました。また来たいです。
運営をされた宮崎の先生方、ありがとうございました。
とにかく感謝です。ありがとうございました。
大変素晴らしい大会でした。大会運営お疲れ様でした。お世話になりました。
特にありません。
実行委員会の先生方、本当にありがとうございました。充実した研修会となりました。
なし。
全大会会場の通路が狭かった。
朝の開場がおそく、エスカレーターを上がったところのロビーが大変混雑して、少し危険を感じた。
特になし。
宮崎県教頭会の皆様、ありがとうございました。
特になし
全体を通して学びが多かった
大変満足でした。ありがとうございました。
ありがとうございました。
運営にあたられた宮崎県の先生方、大変お世話になりました。ありがとうございました。
有難うございます。大変有意義な時間を過ごせました。
最後の全大会の椅子の配置が少し窮屈だった。
運営、お疲れ様でした。ありがとうございました。
空調があまりよくありませんでした。
暑かったです。
大会の準備及び運営、大変お疲れさまでした。ありがとうございました。
大人数でしたが、全体的にスムーズだったと思います。交流もできてよかったです。
2 日目、結構全体会前に会場に入れず待ちました。あとは、スムーズでした。
分科会の時間設定が甘かったような気がします。設定した終わりの時間は守るべき
運営等、本当にお疲れ様でした。
また明日からも教頭職を頑張ってみようと元気が出た２日になりました。
本当にありがとうございました。
素晴らしい大会でした。ありがとうございました
運営の先生方お疲れ様でした。
二日間にわたる大会のご準備、おせわになりました。大変有意義な時間をありがとうございました。
初めて大会に参加したが充実した 2 日間になった。

２日間、たいへんお世話になりました。本県の取組に生かしていきたいと思います。ありがとうございました。
貴重な機会をいただき、ありがとうございました。
宮崎のシーガイアで日常と違う時間を過ごし、大変有意義でした。宮崎の美味しい食べ物もいただきました。運営の皆さま、日頃の業務に加えてお世話いただきありがとうございました。
お疲れ様でした。
初めて参加しましたが、大変有意義な思いで二日間を過ごしました。ありがとうございました。
お疲れ様でした。再来年が佐賀大会なので、運営の参考にさせていただきます。
この大会に向けての準備から大変お疲れ様でございました。
気持ちよく参加することができました。
ありがとうございました。
夏休み返上で、運営に携わってくださった皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました！
宮崎県の教頭先生方、大変お世話になりました。ありがとうございました。
お世話になりました。ありがとうございました。
時期の検討をしていただけると助かります。来週から学校が始まりますので
大会にあたり、企画運営をはじめ、大会関係者の皆様、本当にご苦労様でした。大変お世話になりました。ありがとうございました。
企画、運営等、本日までたいへんご苦労されたと思います。ありがとうございました。
まず大会運営に携わられた先生方、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。また今回提言された先生方、その地区の先生方が多忙のなか素晴らしい実践をされ、またその内容がどれも素晴らしく、今の自分の動きを反省させられました。この反省を反省だけに留めず、今回の取組を参考に今後努力していこうと強く感じました。
きめ細やかな運営と充実した内容で実り多き大会でした。
ありがとうございました。
これまでの計画、準備、当日の運営、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。
開催日が夏休明け前の週で、出る前までバタバタした。
大会全体で、大変なご苦労を感じました。ありがとうございました。
準備、運営、大変だったと思います。
本当に充実した２日間でした。
ありがとうございました。
素晴らしい解除素晴らしいプログラムそしてなにより温かい運営を本当に感謝します。ありがとうございました。
宮崎の教頭先生方のおもてなしの心を感じ、ありがたかった。

提言の協議を各学校に活かしたいと思います。そのためには、夏休み期間中の前半ならば、学校に戻り、先生方に周知し、協議できるのだがと感じました。
講演会は段差のあるホールで聞けるとよかったです。大変充実した研修会でした。お疲れ様でした。
事前準備から当日の運営まで、関係者の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。
大変有意義でした。ありがとうございました。
運営のみなさま、お疲れさまでした。
会場も素敵な場所でした。他県の取組との違いも分かり学びが多いものになりました。
１日目の日程だけは見直しをお願いしたいです。
大会を運営された教頭先生方本当にありがとうございました。
とてもスムーズに大会が運営されており、素晴らしいと思いました。先生方の努力が垣間見れました。本当にありがとうございました。☺
米良さんの講演がとてもよかったです。ありがとうございました。
開場が遅かったのが残念でした。
ありがとうございました。
運営も大変スムーズでした。運営、大変だったと思います。ありがとうございました。
大変お疲れ様でした。ありがとうございました。
実行委員のみなさま大変お疲れ様でした。ありがとうございました
宮崎市の先生方、運営、準備をありがとうございました。
とてもよかったです。関係の方々本当にありがとうございます。お疲れ様でした。
実行委員の皆様、お疲れ様でした。
とても良い大会でした。ありがとうございました。ウォーターサーバーもありがたかったです。
お疲れ様でひた。有意義な２日間でした。ありがとうございました。
初めて参加しましたが、よい大会だなと思いました。有り難うございました。
美味しいもの等が載ったパンフやチラシを配布してら良かったですね
運営をされた全ての方々、お疲れさまでした。
お疲れ様でした。運営ありがとうございました。
お疲れ様でした。
大会の準備等、お疲れ様でした。
お忙しい中細かいご配慮まで大変だったと思います。準備運営をしていただいた先生方ありがとうございました。
本大会までの準備運営等、誠に有難うございました。来年も楽しみにしております。
よかった。
心配りのある素晴らしい会でした

大会運営に尽力頂いた方々本当にお疲れさまでございました。素晴らしい会でした。
企画、運営大変お疲れ様でした。また温かい歓迎も大変嬉しく思います。本日は美味しいお酒を召し上がってください。
運営の皆様、今日まで大変なご苦労があったことと思います。とても素晴らしい大会でした。本当にありがとうございました。
どこにありませんが 準備から色々ありがとうございました 。大変有意義な時間を過ごすことができました。
大会に向けてのご準備や進行、片付け等、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。すごく感動しました。
運営や準備された先生方お疲れ様でした。ありがとうございました。
全体会は、１日目の午後にして欲しい。
実行委員の皆様、お疲れ様でした。
準備など、大変だったと思います。大成功でした。ありがとうございました。
実行委員の皆様二日間大変丁寧な御対応ありがとうございました。
大変なご準備があったかと思います。本当に素晴らしい会をありがとうございました。
　素敵な会場を選んでいただき、運営もスムーズで心地よく過ごさせていただきました。ありがとうございました。
大会運営に関わった宮崎市の先生方に感謝です。ありがとうございました。
準備･運営お疲れ様でした。大変勉強になりました、ありがとうございました。
２日目が午前で終わるのがありがたい。1 日目のお弁当も美味しかったです。宮崎に泊まりがけで来られてとても楽しい時間でした。
宮崎、本当に素晴らしい！感動しました。
関係者の皆様、本当にお疲れ様でした！
大変素晴らしい大会でした。運営の先生方、ありがとうございました。
全体会、分科会ともに会場が手狭だった。
大会運営、大変お疲れ様でした。

第 64 回　九州地区公立学校教頭会研究大会 宮崎大会 報告誌（デジタル版）

ＨＰ掲載：令和６年１０月（宮崎県公立小中学校教頭会ホームページ）
編 集 者：九州地区公立学校教頭会研究大会　宮崎大会事務局
〒880-0027　宮崎県宮崎市西池町 10-13(宮崎県公立小中学校教頭会館)
TEL：０９８５－２９－１３７４　　FAX：０９８５－２９－１３８７
E-mail:miyazaki@kyoutoukai.jp